

學校敷地は一萬八千坪にして校舎の坪數は六百五十五坪なり後に春光臺を負へたる高燥開濶なる場所にして左は壯麗なる偕行社の建築物に隣し建築の美設備の完全したるは小學校としては他に比類なかるべしと云ふ

附屬幼稚園の幼兒數は男女合計して二十名内外なりと云ふ

○私立旭川女學校

四條通十二丁目 校長 澤井兵次郎

本校は明治三十一年澤井兵次郎友田文次郎石神庄之助の三氏に依り創設せられたるものにして私立旭川裁縫専門學校と稱し三條通九丁目に於て開校し次で明治三十四年十月現今の地に移轉し三十七年六月私立旭川裁縫學校と改稱し四十一年一月に至り時勢の要求に應じ學則を變更し學科を増加して私立旭川女學校と稱し四十二年に於て校舎の改築を爲せり

今や本校は校勢大に張り現在學生百二十六名の多きに達し維持の道立つに至りしと雖ども創立當時より十有餘年間の苦辛經營他の推知し難きものあり廢校せんとしたる事

も幾度にして同志は去つて澤井校長獨り本來の職を棄て、其難に處し艱に當り献身以て其事に當りたる其功や少なしとなさず

現在生徒百二十六名之を三學級に編成す

教授科目は修身、國語、算術、家事、裁縫、作法、唱歌、等にして修業年限は三ヶ年なり

○私立上川女子職業學校

四條通五丁目 校長 須子田 貢

明治四十年の創立にして現在生徒七十六名學級を三に編成す

現時の教員は岩崎常子淺野せん子岩橋新の三氏にして教授科目は修身、國語、算術、家事、造花、作法、唱歌、裁縫、刺繡等にして修業年限は三ヶ年なり別に選科速成科の設けあり

○旭川高等女學院

八條通八丁目 校長 高平常世子

明治四十年の創立にして現在生徒五十六名三學級に編成す

教授科目は修身、和洋裁縫、家事、作法、刺繡、編物、にして修業年限二ヶ年なり別

にミシン裁縫科の選科は普通科三ヶ月高等科四ヶ月研究科四ヶ月の卒業なり  
又選科として女禮式、音楽ヅワイオリン、オルガン、生花、造花の教授を爲し速成科  
としてミシン裁縫二ヶ月卒業の制あり

○私立相愛幼稚園

六條通十丁目 園主 杉浦信子

本園は組合教會牧師杉浦義一氏個人の設立にして園主杉浦信子及令嬢とか自ら保姆の  
役に當り目下兒童數四十二名なり

○旭川商業補習夜學會

三條通九丁目

本會は四十二年末の開設なり繁澤四郎一ノ瀬順吉郎の發企にして商業家に必至の學科  
を授くるを目的とす修業期間は六月なり

乙科 講話、英語、算術、國語、商業大意

教授科目 甲科 講話、英語、簿記、算術、商事要項

專修科 貿易商科、保險科、銀行科、運送科、英語科

○旭川實業夜學會

六條通六丁目

本會は中學校長小林滿三郎の獨力經營にして設立以來已に七八年なり其間私財を投じ  
たるもの少からず中學校職員等分擔して教授を爲すものなり英語、國語、數學等の教  
授を爲す

○上川尙武館

一條通九丁目 館主 大河内三千太郎

本館は明治三十三年の設立なり館主大河内三千太郎氏は幕末の士なり劍道の達人にし  
て維新の戰各所に轉戦し後數年官途に在り野に降りし以來旭川公共の爲めに盡したる  
もの少なからず士氣の振はず劍道の衰退せんを憂へて本館を設立し武士道を鼓吹す經  
營十年訓化を與へしもの少なからず館主は中學校警察師團等の囑託教師なり目下劍道  
は大河内氏柔道は齋木藤之助氏之を擔任す

○上川教育會

本會は明治三十一年頃林顯三氏支廳長時代に於て設立し一時中絶したりしを明治三十

四年之を再興したりしに會勢不振の有様なりしも平井支廳長熱心改善の策を講じ近時漸く發展活動雜誌を發刊するに至れり附屬圖書館は四十二年開館して頗る盛況なり本年度に於て一千餘圓を支出して書籍を購入し巡回文庫開設の計畫なりと云ふ

### 宗教機關

#### 神社

神社名	創立年月	所在地
村社 上川神社	明治二十六年壹月十二日	宮下通二十丁目
近文神社	明治三十九年六月十二日	近文三線一號
招魂社	明治三十五年	全一線一號
寺院	宗派	所在地

善光寺	淨土宗知恩院末	四條通三丁目
慶誠寺	眞宗本願寺派本願寺末	五條通六丁目
本願寺旭川支院	眞宗大谷派	宮下通二丁目
大休寺	曹洞宗大本山永平寺末	四條通五丁目
本光寺	眞宗出雲寺派	四線一號
妙法寺	日蓮宗	中島
眞久寺		五條通四丁目
願成寺	眞宗出雲寺派	四條通十四丁目
金峯寺	眞言宗高野派	五條通十七丁目

#### 説教所

所名	宗派	所在地
眞言宗興正寺派説教所	眞宗興正寺派	三條通十六丁目

最近の旭川

一五二

眞宗大谷派本山  
本願寺所屬説教所

一線一號

臨濟宗妙心寺派説教場

一條通十三丁目

成田山出張所

宮下通九丁目左八號

### 佛教團體

旭川佛教青年會

本會は慶誠寺内に事務所を設け二諦相資の教義に依り道念を養成し國家と宗教に對し二世の幸福を完ふするを目的とするものにして井内歎二氏之が會長たり本會は尤も温健なる青年團體にして會員は自ら其品性を保たん事を期して孜々とし發展を期しつゝあり

### 基督教會

教會名	創立年	所在地
旭川組合教會	明治二十八年	二條通十二丁目左一號

日本聖公會

三條通十三丁目左七號

日本基督教會

二條通十二丁目左十號

日本ハリストス正教會

明治三十四年九月

天主公教會

明治三十七年

五條通十一丁目

日本メソヂスト教會

明治三十五年八月

四條通十二丁目

### 基督教團體

日本メソヂスト教會内

#### ○基督教青年會

本會は宗教上の知識及信徳を養成するを目的とするものにして毎月一回常集會を開き演説及講話等を爲し集會場は各派輪番に當り時に演説會を公開し又慈善事業に従事す

#### ○基督教婦人矯風會

本會は元ビヤソン婦人會長なりしが現今は杉浦信子會長たり婦人の矯風を目的とするものにして今日に至る迄醜業婦を救護して函館に送りたるもの五十餘名に達し又慈善

最近の旭川

一五三

の爲めに盡されたるもの少なからず常に其目的に向て活動して止まずと云ふ

### 神道教會

教會名	擔任者	所在地
天理教水口大教會佐野原分教會上川支教會	吉野慶助	二線一號
神理教稻荷教會	高瀬頼之助	七條通六丁目
神道三山敬愛教會旭川教會	小關元治	曙通
三嶽教明理教會	福井龜吉	四條ノ九
黒住教會	尾崎長次郎	六條ノ八
金光教會	久郷梅次郎	六條ノ八
神理教明光教會旭川創立事務所	石橋和足	中島
天理教會	更谷某	三條ノ十九

### 神道教會團體

### ○神道講話會

同會は昨四十二年末の創立にして神道諸教會の主管者及信徒有志の人に依りて組織せられたるものなり毎月一回講話會を催ふし知識の開發及親睦を旨とするは勿論神道の神髓を發揮振作を目的として他日大に爲す所あらんと欲するなりと云ふ

### 文藝機關

### 新聞

新聞名	創立年月	所在地
北海旭新聞	明治三十四年一月	三條通九丁目
上川新聞	明治三十八年四月	二條通十四丁目
旭川毎日新聞	明治四十二年	五條通十二丁目
北日本	明治三十九年	二條通五丁目

最近の旭川

旭川商業新聞 明治三十七年八月 二條通五丁目

新聞支社

新聞名	所在地	新聞名	所在地
北海タイムス	三條通十丁目	報知新聞	一條通七丁目
小樽新聞	三條通九丁目	東京毎日	全

救済機關

○日本赤十字上川委員部

部長は平井光長氏にして上川支應内に於て執務し居らる部内終身社員總數二百五十四人正社員は千二百九十九人計千五百五十三人にして内旭川町の終身社員は百四十五人正社員は二百四十八人計三百九十三人なり(四十二年七月現在)

○同仁會上川委員部

委員長は平井光長氏副委員長竹村錠次郎氏外委員十名なり且下の會員二十四名にして同會は清韓其他亞細亞諸國に醫學及藥學之に隨伴する技術を普及せしめ且彼我人民の健康を保護し病苦を救済するを目的とするものなり

○愛國婦人會上川幹事部

部長は野田とし子にして事務は上川支應内に於て扱はる終身會員は十八人特別會員は百八十三人計二百一人にして内旭川町終身會員は十八人特別會員は百二十一人なり(四十二年六月現在)

○上川孤兒院

二線一號

上川孤兒院は明治三十五六年頃の設立なり院主吉田某無能にして院務更に振はず日々悲境に陥り軒破れ壁落ちたる院舎に襤褸を纏ふたる院兒蠢々の狀人をして見るに堪へざらしむ院兒は救はれて却て乞食兒を偽ぶの有様なりしが偶々地方有志の知る處となり一昨年頃より有志者東奔西馳之を贊助し有志より金品の寄贈を受け又應分の出金

なして活動寫眞を購入して各地の遊説を試み次には支廳長に請ふて基本財産として土地の貸付を受け近時漸く院兒は安泰なる救護を受くるに至り近き將來に於て院舎建築の計畫ありと云ふ

役員、監事長 山崎與吉 監事 笠原定藏 井内歎二 小林直三郎 矢島宇八

辻廣駒吉 小楡山鐵三郎 馬場泰次郎 小澤健三 下村庄之助 小川眞一郎

### ○行旅病人收容所

四條通四丁目

行旅病人にして道途に倒れたるものを收容する所なり旭川町の經營にして請負人をして請負はしめ居る費用は地方費の負擔にして旭川町は一時立替を爲すものである現今一日一人の費用は食費及寢具料金三十一錢藥價は平均凡そ四十錢以上を要す病人の平均收容數は凡そ七八人の割にして四十一年度には千七百十三圓餘四十二年度には千五百餘圓を支出したりと云ふ

## 社交團體

### ○旭川婦人會

本會は旭川の婦人社交機關なり六七年前の創立にして會場を建築し時々集會を催ふし知識を交換し親睦を旨とし種々なる娛樂を爲す會長は野田とし子副會長岡本シツ子にして會員は重もに旭川の紳士婦人令嬢等なり

### ○上川禁酒會

上川禁酒會は事務所は四條通九丁目に在り基督教の信者會員に多しと雖ども決して基督教徒に限りたるにあらず會員凡そ五十名

## 演藝界

旭川の天地も日に月に斯界の隆昌を來たしたれども數年前迄は寔に寂々寥々たるもの

ありしも昨年より本年に掛けては一層の繁昌を來たしたるものゝ如し左に重なる斯界の指導者を示さん

謠曲 寶生流 寺井喜右衛門氏 當地に開業せられてより已に十年餘門下生常に四五十人あり

觀世流 稻垣芳藏氏 同氏も當地に開業せられてより殆んど十年門下生寺井氏に降らず

長唄 師匠に八住小吉なる達人あり鳴物を教へらる長唄演習會なるものを組織し醫師嘉多村慎吾氏之が會長として發展を策せらる日に月に隆盛に赴くものあり

義太夫 は數年前より隆盛であり師匠には竹本國恵、鶴澤糸遊など數年前より門戸を張り居りしが近頃豊竹桂尾太夫門戸を張り一層の隆盛を來たし白人の天狗連も少なからずと云ふ

琴 も又近來は至る處にてコロリンシャンを聞く様になつたが數年前迄は師匠さん

も飯も喰へぬ有様なりしも近頃は奥様と呼はるゝ連中は是非心得ねばならぬものとなりたるなり師匠さんには左の諸子あり

山田流 溝口まさ子 生田流 徳田はる子 同 山根かく子 別にも數人ありと聞けど能くは心得ず

踊 の師匠には市川華仙と云ふ名人あり長唄端唄なんでも教へられる藝者衆の稽古所であるから朝から晩迄大した繁昌なものである

清本 には清本信菊と云ふ師匠あるもなにはあれ清本は餘り流行せざれば餘り弟子も多くはあらぬようなり

生花 も奥様令嬢方の身嗜として心得ねばならぬものゝ一つとはなりつれども却て華などよりは流行の下位にあるものゝ如し

生花にては西村莊助氏松月堂古流を以て十年以前より寺井喜右衛門氏は謠曲の傍是亦十餘年前より古代遠州流を鈴木照吉氏は一昨年頃より清松軒鶴雄と云ふ看板の下



に池の坊を教授せられ居れり又孤蓬遠州流松旭齋一露と云ふ看板も見受ぬ

茶の湯 も奥様令嬢方の必要物と感ぜられたる方なるも生花よりも一層嗜味を以て迎られざるが如し而して左の諸氏之を教示する寺井喜右衛門氏は石州流 鈴木照吉氏は千家表

碁棋 斯界には元來旭川には段以上の人あらざりしかども何れも閑人は之を弄するの習として熱心家も少なからず碁會所も一二軒は見受けたりしも本年となりての現象は頗る珍奇にして廣くもあらぬ裏長家に至る處圍碁集會所を見るなり近頃三段中村善一郎先生來旭教示し居らる

## 旗亭

旭川の新天地は鐵道開けて師團は設けられ、昔は熊の住むてふ蝦夷か島根の山奥も、今は都ぞ花も咲く電燈電話と文明の利器も夫れ夫れ備はりて高樓大廈は天を摩し商店

櫛比車馬絡繹、往さ來るさの人の數、都太路の銀座にも劣らぬ町の賑ひ豈唯旗亭の不在にあるべき筈ありとせんや

### ①第一樓

旭川町一條通六丁目 電話一六一番

舞臺は大廣間の設備あり大小の宴會に適す

金樽有酒々芳烈 玉盤有魚々鮮美

第一樓名さへ已に振へり實之に叶ふ創業者は旭川の俠客佐々木源吾氏なり、今は辻廣駒吉氏之を經營す新築の二階建百二十疊敷の大廣間舞臺の設あり座敷の瀟洒、器具の高雅、庭前の築山、至れり盡せり況んや丸サの見番には本家本元電鈴一振阿嬌顯はれ細腰來る、伊丹の芳醇、松江の鱸魚、葦菜の羹は何かあらん此亭に登らずんば旭川の旗亭之を語るの資格なし

### 常陸屋

旭川町四條通八丁目 電話二二三番

鰻大蒲焼 滋養御料理

旭川では尤も人氣を呼びたる料理や一昨年六條通りに新築したる佳麗なる家屋は本春類焼の災に罹り中鉢寫眞館を譲受け改造したるものなり主人は料理の通人にして造作致して灑洒にして大小の宴會に適す

精養軒

旭川町一條通六丁目左十號 電話五一二番

西洋料理

旭川の西洋料理の元祖主人徳淵儀三郎氏は西洋料理の名人にして玉突の老将なれば以て其非凡なるを知るべし大小の宴會に適す

源泉屋

旭川町二條通七丁目左三號 電話四九番

そばやにして料理を兼ねたる流行の旗亭なり主人は觀世流の謠曲熱心家にして嗜味もあり料理とて座敷とて悪しかるべき筈なし

東京家

旭川町二條通八丁目左三號裏 電話五〇六番

京都稻荷山名産松茸めし

鰻大蒲焼

御手輕料理

新築の二階建、一寸見ても登り度心地する、近頃頗る流行の旗亭なり、主人の氣性も矢張さつぱり、飲んで甚だ心地よし

第二樓

旭川町二條通九丁目右裏 電話一六六番

此樓を第二樓と云ふは第一樓に對したる名なり結構第一樓の大なるに如すと雖ども他に對して遜色なし主人は料理の通人腕を燃りての働き、他家て見られぬ御馳走振りなり、廉にして且つ美味乞ふ試みに一顧の勞をおしひなかれ

登喜和

旭川町二條通七丁目左 電話四五番

鯉料理

鰻蒲焼

柳川鍋

鯉は旭川の名産、鰻と鱒は本場の仕入、生きたものゝ料理旭川では外には見られぬ珍味なり此亭元來頗る勉強を以て名あり見番は直ぐ近所に在り便利甚だよし

大坂屋

旭川町二條通八丁目左七號 電話四一三番

牛すき鍋

西洋御料理

大坂屋の牛すきなべは旭川での評判もの近頃西洋料理をも開業せり家屋は新築にして小酌を催するには尤も適當なり

③富士見亭

喜し 御手輕料理

旭川町二條通八丁目左五號裏

最近の開業にして自慢は喜しの上等家屋は新築にして價は廉なり劇場祐徳座の向ひなれは一寸立寄るに便利なり

辰 見

旭川町二條通六丁目左

電話二〇三番

會席 喜し 天ぷら

會席料理にして廉價の親玉喜し天ぷらの鹽梅など主人は流石料理の通人宮様御旅館御料理を勤めたる事もある程なれば推して知るべし

④蕎麥屋

旭川二條通九丁目右八號

電話一四二番

喜しは 柳川 御料理

旭川では古きのれんの蕎麥屋なりあしかるべき喜なし御手輕料理、柳川なべたてり辨ぜざるなし座敷も數々あり勉強の親玉なり

⑤料理店

近文二線一號

馬鐵會社の向にあり去年迄は旅館なりしか本年より近文にも料理店を許可せらるゝ事となり第一着に許可を願出てたるもの主人河野政吉俠骨面白き人にて家屋は二階建にして一酌を催ふすには尤もよし

眞金 仙

旭川町二條通六丁目左

電話五五二番

あひ鴨鍋 小鳥めし 小鳥料理

料理は珍にして美味なるを貴とす原料皆新鮮なるものを取る旭川には適當なる料理家なり家屋は新築にして頗る勉強なり

松葉亭

旭川町二條七丁目師團通り

長電話二二三番

旭川で三階の料理やと云へば此亭なり眺望よくして料理の如きも其亭の高と共に其名

も高し

### 名所古蹟

○神居古譚 神居古譚の名勝已に天下に高し編者の拙劣なる文字を以て之を形容する却て其神靈を瀆すの恐れなしとせず故に松浦武四郎氏の石狩日記を抄して之を掲ぐ

シキウンバと言ふに着す、此處土人等皆荷物を上げ乗り來りし船をつなぎおく所なり故に此名あり、又向岸に岩窟あり其奥を知る者なし、雪中には皆茲に入つてやどりすとかや、是より兩岸峨々と聳え山尖り樹老い怪岩奇石にして苔滑なり、岩間には種々の異草多く見へ、水怒り谷響き、如何にも龍蛇をも潜ましむる如く怪まるなれど、別に異なるもの住まされども斯の如く數十日の水上に潜龍沙漁の居る事奇と云ふべし、土人括槍を提げて岩上に暫時停立せしが四尺許の潜龍沙漁を一尾と三尺許のチライ

(和名イツナイトウ)を得來る又一人は赤箭天麻、五六本取り來る、これは土人の薩摩芋なりとて焼いて我等にすゝめ味噌汁にもなし呉れぬ、夜に入り跡舟も來りしが故、石上に一鱧を傾け岩根を枕として眠る又一奇なり、十八日早晨、蓬を出づれば土人石の凹みに水を入れて嗽がしむ、余は一人を伴ひて断岩をよぢ巨石を刎ね越し一々名區を見物し行くに「ホロレブンベ」と云ふ處、兩岸川中へ聳えたる處に一つの瀧あり、五段になりて落ちるなり「ホロシユコ」といふは其水上中に烏帽子の如き岩突出す「ホロレブンベ」は前に同じく南岸せまる處の瀧なり

奇岩水中に挺出して其間獅子飛ともいふべき處にして土人等が常に其下の渦巻ける深澤の上より括槍を遣ふ處なりとぞ、鬼の足跡とて凡そ三圍り計の井の如き穴三つあり、深泉一丈餘又纒かに五六間を過ぎて「エモンケン」といふは山靈の鬼を斬らんとして此處に刃先を切込みし所なりと云ふ「サヌシベリ」と云ふた兩岸愈々迫り其上水渦を巻き「ラツンオコナイ」として南岸に一條の飛泉あり、水底に柵を結びし如く一筋の石垣の

様なるものあり、過ぎて「ハルシナイ」といふに出る所にて少し遅流になりて丸木舟も五六艘備あり、是より又舟にて上るなり(詩あり略す)

水底は磊々たる大石苔滑かにして厚く水急なり、崖樹枝を接し葉密にして根を露はし、掌立の嶮崖には白糸を亂せしが如く或は布を曝せると怪まる、飛泉數條の處を過ぎ、左の方に「イツンヤバ」(鬼首)といふ所に至る、數丈の巨岩の水中に聳立す、土人等はこゝにて木幣を削りて途中の安を祈る「スソーナイフイラ」とは突出したる大岩に流水碎けて波濤を逆立す、「カモイネトバチ」とは七八丈の立岩恰も鬼の體の如きもの時立す、此邊に至る益々急流なり二人は木の根岩角に上りて繩もて曳き水棹にて突張り余は垢を汲みすて辛苦萬苦して上るに彈指の油断をするや數間を流され其危き事數度に及べり「レイコロブイ」といふも同じき急瀬なり「トレフサラネフ」と云ふは彼の鬼神の携へ居たる蕎麥葉貝母(和名鹿のかくれたる百合といふ)を入れし蘿の化石なりとてすべて此鬼神には種々の縁故もありしが、土人等他に語るを然せりとかや、過て

「ヲ、コツモナイ」イヨシトイ等數丈の瀧なり、「ニマンベツノゲト」此邊へ來るや少し遅流になりて先づ安心をなしぬ、過て「チカブニ」といふ山の麓に着し宿さんとするに蚊多くして寐がたき故に夜中俄かに舟を出し流水につなぎて一夜を明かしぬ其木に又一絶を記るす

繫船雲揚昨、霏微暮靄浮、蓬窓苦蚊齒、半夜泛中流、

往時の神居古譚は即ち此の如し今や該所には停車場の設けあり、旭川より一時間以内にして達すべし待合及鑛泉宿(安藤)舊驛遞の二軒は旅人を宿泊せしめ又酒肴を供す常に石狩川より漁る所の新鮮なる魚を調理して食膳に供す該所の風景は花に月に雪に紅葉に納涼に一も適せざるものなし故に遊覽の客常に絶ゆる事なしと雖も春花秋楓の雅絶殊に以て稱すべきなり故に此時期に際しては鐵道は割引して遊覽客の便を計るを例とす

兩岸相迫るところ停車場より向岸に達する爲め橋を架す鐵線を以て之を釣る歩行すれ

ば一上二下動搖尤も甚だし下を望めば即ち水盤旋して渦を爲す眼は眩し氣は失せんと  
欲するものあり婦人の如きは往々にして俯仰して之を渉るものあるも兒童に至ては嬉  
々として之を奔馳す

小泉 盜泉

安流入峽萬波驚 響應奔輪百折行 山限廣平邊氣壯  
雲隨起滅亂颺生 走蛇山勢不容顧 群獸石姿皆可名  
奇絶川虛眩過客 來時煙雲去時晴

池田 北 溟

天鐘靈秀氣 別開此區實 煙雨時開闔 漁樵獨往還  
泉聲標渺裡 巖影有無間 神骨悠然化 仙梯手可舉

其二

岸巒帶秋雨 妙趣更橫生 水躍山皆動 雲奔石欲傾

深潭異鱗蟄 老樹怪禽鳴 戀賞難移步 奇觀細品評

其三

攀陟屏崖表 全豁落眼中 懸泉拋翠確 危石倚蒼空  
電氣橫丹壁 雨痕點錦楓 靈氣有如畫 詩句費人工

郷田 小 汀

さても見よ神居古譚の蝦夷にしき  
染る紅葉の秋の景色を

琴聲溪夜雨 八景の内 高 鴨 復 堂

ことの音も溪に流れて夜もすがら  
さくもやさしき春雨のころ

臥牛密櫻雲 同

雲のたて櫻のぬきにおり込めて

牛ふす辮の春の乃とけさ

飛獅石躍魚

ふりみだす獅子の毛衣岩にさせ

早瀬に躍る魚のすゞしさ

とふ獅子もいつか河邊に岩なして

浪なき淵にもとる白魚

神居古譚の紅葉

同

玉ちはふかもゐの谷のみなそこも

なへて錦や峯のもみちは

近時該地の山紫水明に着眼し其發達を囑望して別荘を設けたる紳士ありと聞く數年を出でざるに神居古譚の地其面目を一新するや明なり

○旭ヶ岡

神樂村御料地内にあり 離宮御豫地に屬す因と神樂岡と稱したりしか

明治三十四年六月御料局長岩村男爵當地巡回に際し旭川町有志男爵を該地に迎へたる時之を旭ヶ岡と改稱せられたるなり此地美瑛、忠別の二川逶迤として繞り水冽く氣爽に老樹鬱蒼として晝尙暗く春は禽鳥の啾々たるあり秋は鹿鳴の呦々たるあり細鱗は清溪に潑瀾し肥兎は山間に躍如たり登りて下瞰すれば旭川市街は忠別川を隔て、眼下に落ちて石狩川は蜿蜒銀蛇の如く滿野の風光一望に集り山水明媚の勝區たり

神樂岡紅葉

高 鴨 復 堂

ひらきまふ神樂ヶ岡の紅葉ばは

錦なしつゝみゆき待つらむ

○近文山

近文山は鷹栖村の西端にあり一に嵐山と云ふ明治十八年八月の交元屯

田兵司令長官永山武四郎氏及時の北海道廳長官岩村通俊氏等の一行千辛萬苦櫛風沐雨艱難具に背め上川探見の際此山に登臨して上川の地を相したるの古蹟となす後岩村長官は自ら文を選し平野夏雲に命して紀念として石碑を建てしむ今現に存す、登臨すれ

ば上川の曠原指呼の間に在り四圍の群巒重疊波の如く濤の如し石狩、忠別、美瑛等の諸川は蜿蜒として其間を流る山河襟帶の状恰も平安城に髣髴たるを以て他日の北京として此地を相せられたるなり左に碑文を録す

明治十八年八月岩村通俊永山武四郎長谷部辰連佐藤秀顯等各以其官事登此山則山河圍繞原野廣大實有天府之富他年大道如砥都府已成相與再登舉杯酣飲以談今日也乃相謀建碑以遺之後云

○半面山 近文山の續にして其北に在る禿山なり明治二十一年七月陸軍次官桂中將上川の大原野を開拓せんとする目的を以て巡回せられたるとき八月一日近文山に登りて眺望せられたりしが更に半面山の滿眸一瞬近文山の比にあらざるを説くものあり輒ち桂次官は歩を轉じて半面山に登り四方を一望す其壯絶快絶更に近文山の比にあらず眼下に忠別近文の二大原野を瞰下し東北遙かに天鹽國境より愛別の群峯連亘し西南に方り十勝國境より遙かにフラヌ原野に至る迄悠遠漠々恰も叡山に上りて西都を一望

するが如し次官傍人に謂て曰く上川の地天然西京の地に似たり後年此地に一大兵團を置かざるべからずと今や即ち師團を設置せらる偶然にあらざるなり此行次官は永山將軍の故ありて同行し能はざりしを遺憾とせられしと云ふ、此山春花秋楓の候に登て一望すれば四邊皆錦繡を飾るが如く身は羽化して登仙したる如きの感あり

○近文臺 近文第七號道路の高臺にして公園豫定地たり南北二里餘東西一里に下らず老樹森々として繁茂し頂上は稍々平坦なり此地曩には全く陸軍省用地に編入せられしか後神社及公園敷地として數萬坪を鷹栖村に附屬せられたり高さ僅に六丈餘に過ぎざる丘陵なるも眺望絶佳なり眼下に七師團及旭川の全市街を一眸の下に集めて旭ヶ岡に對し東に「ヌタブカウシベ」及「オフタテシケ」を望み石狩、忠別の諸川は蜿蜒として林沙の間に隠見す此地今鷹栖神社を安置す

○春光臺 第七師團の後にある高丘近文臺の一部なり眼下に師團衛戍地を望み旭川の市街を一眸の中に集む春秋の交曳杖の地としては最も適當なり平坦にして處々に



腰掛くべき設備もあり

○翠香園 略通右三十六號鐵道に沿ひ一條の小流を以て西南を圍み山を築き池を設け架するに橋を以てす丘上更に東屋を設け珍卉花木を栽植し又温室を設けて熱帯植物を保育す此園の風趣四時共に佳なりと雖も園主の殊に自負する所のもの牡丹、芍薬、あやめ及洋花の珍種等にして春夏に掛けて艶麗實に目も眩せんばかり綠陰苔滑かなる處亭上麥酒を抜くの快味亦云ふべからず池田氏の茲に此園を創始して以來已に十一年自ら苦心經營園の美觀を呈したるのみならず産大に成りて訪客自ら増すものあり左に年中の季節ものを記して訪客の榮とせん

一月より三月迄は温室ものには冬咲各種の熱帯植物及温帯植物には梅桃櫻海棠木瓜

四五の兩月は水仙、ヒヤシンス、チュリツブ、クロカス、テージ、パンヂー

六月は富士櫻、山櫻、八重櫻、庭梅、躑躅、牡丹、あやめ

七月 花菖蒲、天竺牡丹、唐菖蒲

八九月 萩、すゝき

十月 菊

盆栽、植木等幾百鉢にして各種珍卉花木は一種に付五六種より二百種位迄あり殊に讀者に紹介すべきは園主は何種子にてもあれ御望に依りては精選のものを分與せらるるなり

○蛇の温泉 石狩川のほとり旭橋の上手一丁餘の所にある鑛泉湯なり鑛泉に温度あればにや蛇多く住みたれば蛇の温泉と名つけたるなり何となふ氣持わるき名なれど今は蛇も居らずなりぬ石狩川の流に枕んで閑靜なる所なれば一日の清遊を試み俗腸と塵垢とを洗ふには屈竟なり園内には色々の草花幾百種となく植ゑられ殊にあやめばらは澤山にありて美麗云はん方なし春花秋月夏の納涼など尤もよけれども冬は置炬燵して一酌するも一興にや

○偕樂園 八條通九丁目に在り園主は田中富三郎と稱す素駝師を以て業とす明治

最近の旭川

三十四年の創業に屬す同地に清泉あり滾々として晝夜を絶たず東南丘陵の如く高し氏  
茲に見る所あり自ら荆棘を開き池を鑿ち又山を築き樹を栽し石を運び珍草花木を配列  
し池には魚鳥の悠々緩々として遊ぶあれば瀧々として言する飛瀑もあり中に數棟の數  
奇屋を設け本亭より虹の如き長橋を架したるなど多年の苦辛經營費用を投ずる幾千圓  
漸やく人工を脱して自然の境に入らんとす爾今若し數年の歲月を経過するあらば幽邃  
閑佳實に得難きの勝區たるを失はず此園今や鯉、鱒などを飼養して四季を絶さずして  
此等の珍羞を遊客に供す

## 最近の旭川

終

# 附録

劇寄見遊

場席番廓

旭川町三條通七丁目

上川見番

電話四四五番

旭川町二條通七丁目



見番

電話一六二二番

劇場

旭川には三個の劇場あり曰く佐々木座曰く祐徳座曰く大國座なり佐々木座は明治三十一年佐々木源吾氏の創立したるものにして現今の座主は辻廣駒吉氏なり時勢の變遷に應じて一層擴張の方針に依り他の地を相して大規模の建築計畫中に在り祐徳座は明治四十一年の建築にして近藤幸五郎氏の所有に係り大國座も亦た四十一年の建築なり座主は麻生才七氏にして三座共に年中開場して競争を試む旭都に遊ぶの好劇家に取りては尤も幸なり別に麻生氏目下恵比志座建設計畫中なり

寄席

旭川には劇場の多さに比して寄席の少なきは奇なり席亭唯市場亭あるのみ外に旭亭と稱する一席あり空屋にして何等の興行を爲さず市場亭は明治三十九年の建設にして元と佐名木恒太郎氏の建築したるものなれども今は佐藤藤吉氏の經營する所なり終歲興行を絶つ事なし此の稿を終りたる後席亭旭亭は安良充氏之を引受け修繕中にあれば遠

からずして席亭の一を増すに至るべし

### 見番の由來

旭川には丸サ見番と上川見番の二つの見番があつて楚々たる輕腰嬌々たる嬌姿其數凡百有五十名あり見番は上川見番は古くして丸サの方は新しきなれども丸サ見番の優勢なるに加かず

抑旭川見番の由來は明治三十二年の十月株式に依り組織せられたるもの（第一樓、大坂屋小ふじ亭開月樓一〇などの主人にて組織）なりしが三十五年に至り分離して新見番なるものを組織し三久保政吉氏外數名の共同なりしが當時佐々木源吾氏は獨立して丸サ見番を組織し又一方には旭見番なるもの顯はれ三方鼎立して互に競争を爲したりしが佐々木源吾氏は旭見番を買收して丸サ見番と合併し三久保政吉氏の支配したる新見番は株主の折合宜しからず三久保氏一人にて引受け營業する事となり爾來旭川には佐々木源吾氏の丸サと三久保政吉氏の上川見番と兩立して動かぬ事となれり

### 遊廓の由來

略遊廓は之を舊遊廓と稱す蓋し中島遊廓の新たなるもの出てたればなり略遊廓の新設は明治三十年にして十九戸の區割を以て許可せられ開業したるものは十戸にして新勢樓（杉谷）青柳樓（池内今の池内にあらず）開新樓（丸サ）明治樓（堀川）近江樓（高橋）月見樓（友貞）吾岳樓（笹岡）開明樓三盛樓金成樓等であつたが其後追々旭川の發達と共に營業者も増加し師團工事の際は中々の繁昌なりしが師團工事終りを告げてよりは至て沈衰の有様なりしも日露戦争の際動員令の下りたる爲め再び繁昌を來たしたりしが四十年の三月中島に遊廓が許可になりたる爲め同廓に移轉したるもの三戸其後廢業者も出來き現今にては十餘戸の營業者あり昨年以來の不景氣にて何れも菜色あり活氣を見ず左に其樓名を紹介す

越中樓、富士見樓、近江樓、月見樓、明治樓、ばんさ樓、岩城樓、大黒樓、青柳樓、開明樓、福島樓、三笠樓、中島遊廓は明治四十年の三月新設を許可せられたるものに

して國會議場に迄も華を咲かした有名なる遊廓なりしが區割地は二十六戸にして現業に着手したのは二十一戸なり于然該遊廓設置せられて以來は經濟界の不況に陥り一般の不景氣を來し此里ばかり花の咲かふ等なくして二三の廢業者も出來き現今の營業者は十九戸なり此遊廓は新らしき丈ありて區割も整然として大門から中の町の模様其外の町割も江戸の芳原の小なるものにして見返りの柳は植たばかりて尙ほ小なれども思案橋は土手八丁の中頃にあり石狩川をば墨田の流れに擬へなば本物の芳原と異なる所もなし電燈の炳々たる夜景は芳原が明るくなれば内は暗の想を起さしむるものあり左に其樓名を紹介すべし

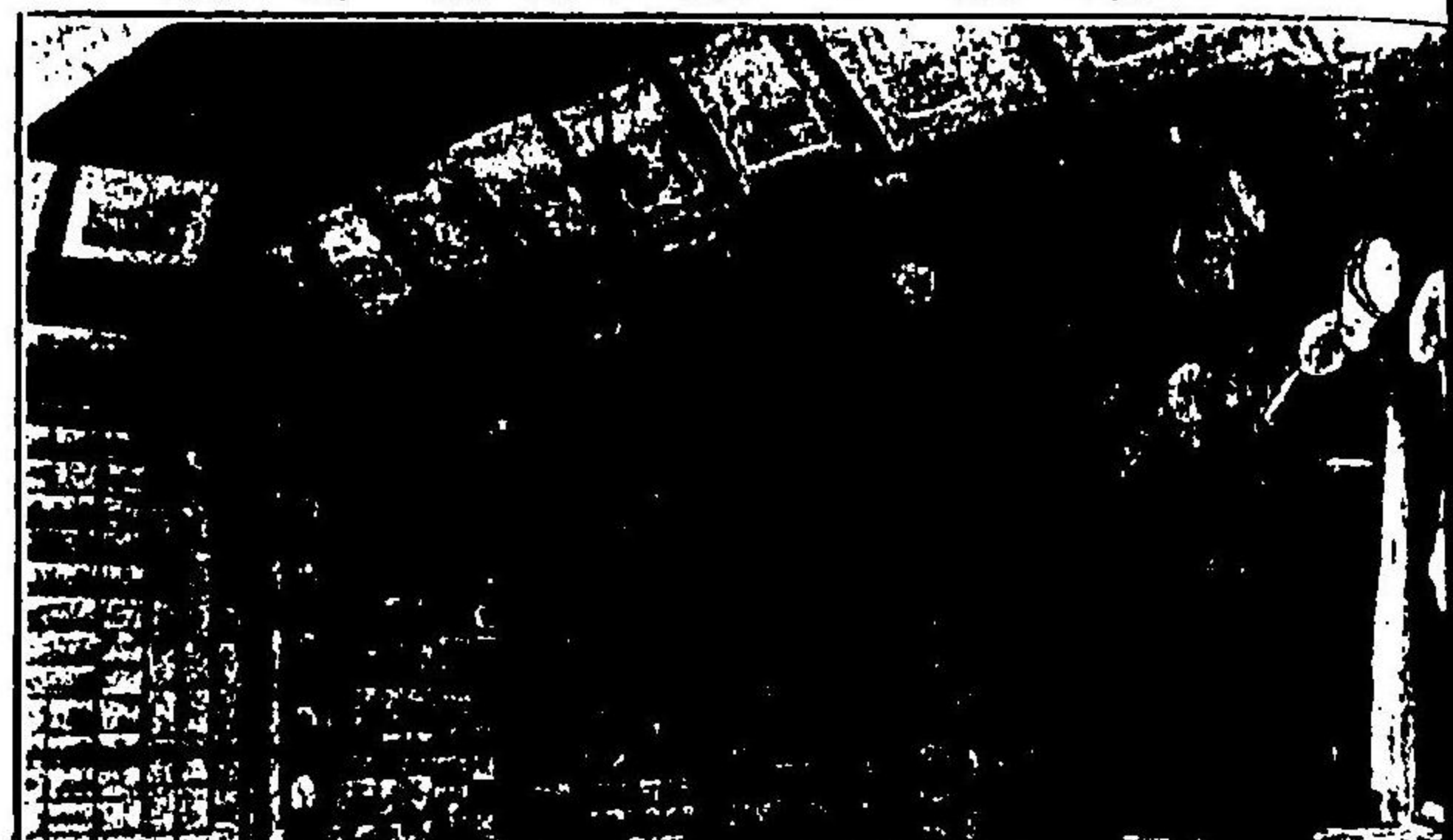
いろは樓、昇月樓、新勢樓、高島樓、江差樓、鶴川樓、新玉樓、浪華樓、旭樓、常盤樓、愛媛樓、若杉樓、吾妻樓、長盛樓、金松樓、勇樓、山嘉樓、喜樂樓、榮進樓、

此廓も同様不景氣の風には襲はるゝを免れず昨今は景氣はよくないとの事なれども日に増し繁昌に趣きつゝありとの事なり

(終)

商 工 案 内

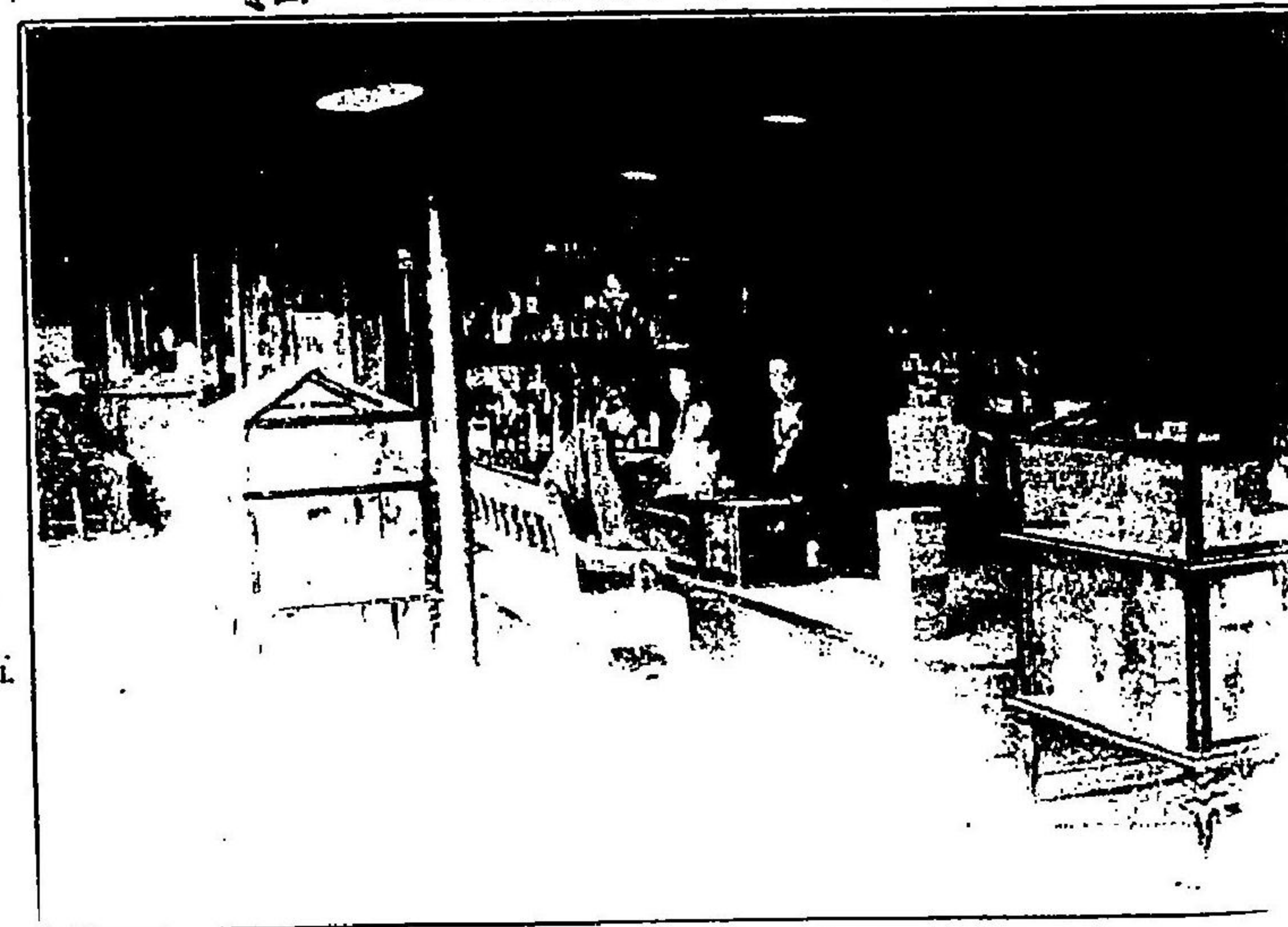
所行發L川旭の近最



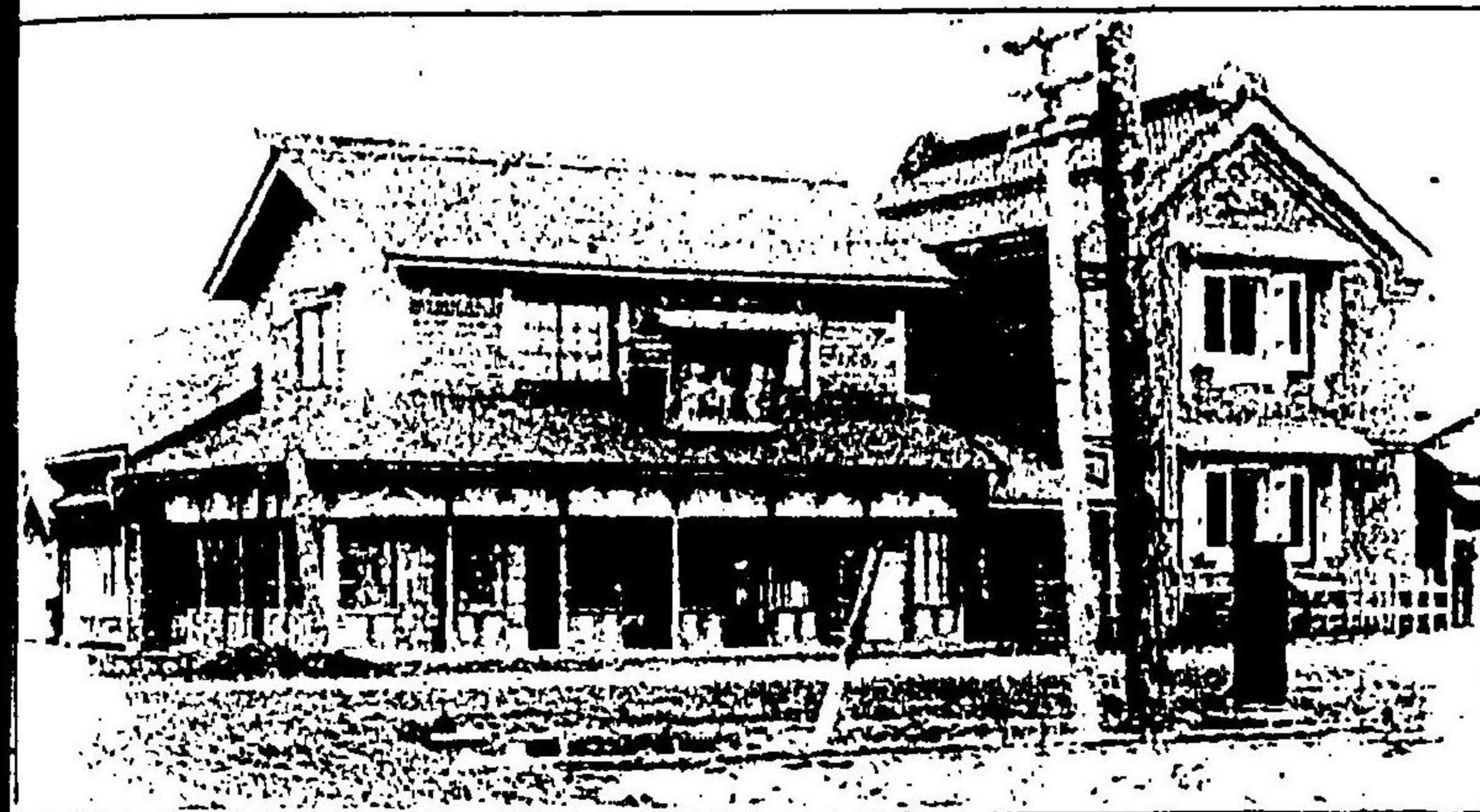
(番一十五百話電)目丁八通條二町川旭  
行發堂文弘



店藥藤齋 ㊦  
 (番一十二百話電)目丁八通條二町川旭

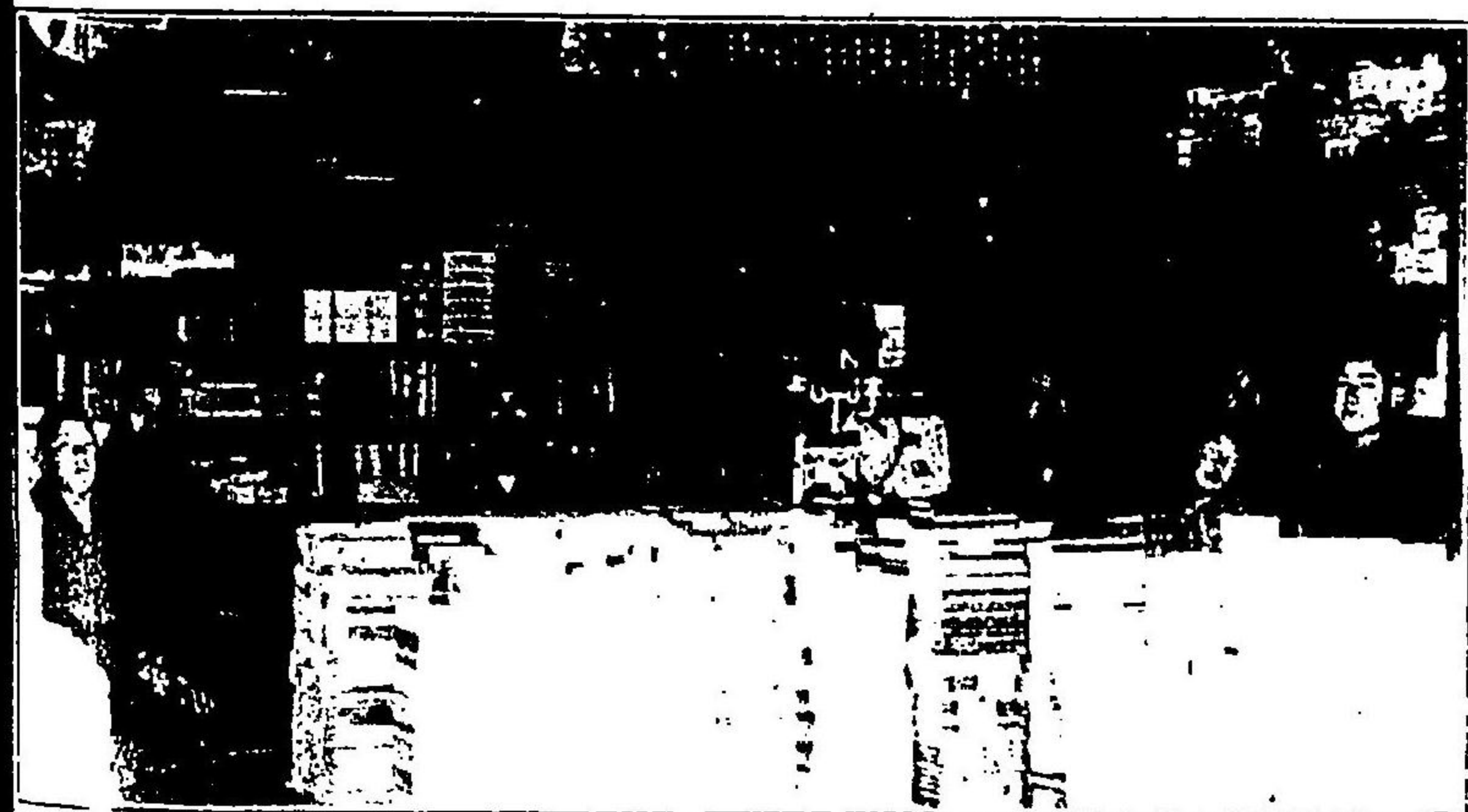


店藥藤齋 ㊦  
 (番一十二百話電)目丁八通條二町川旭



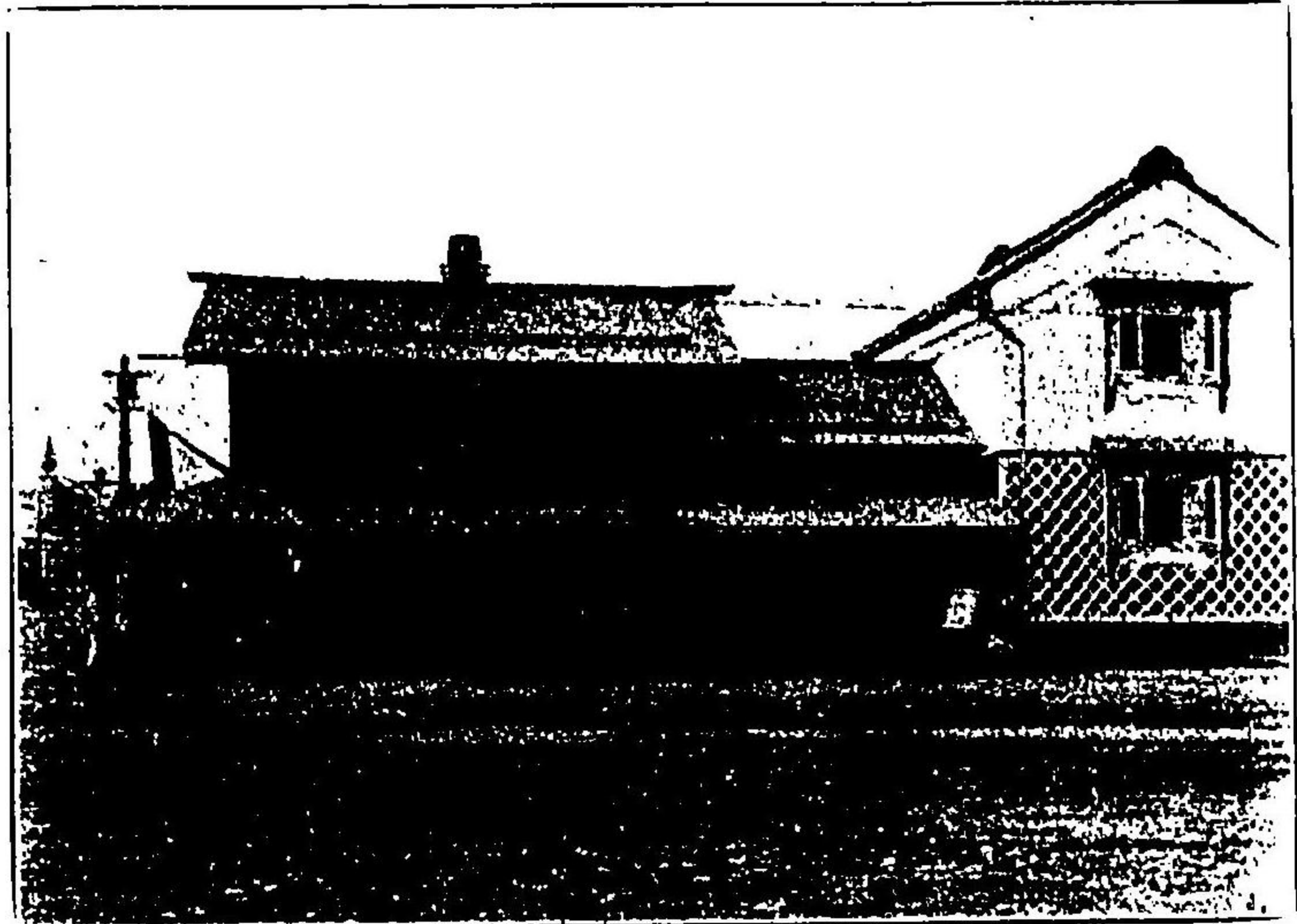
店糖砂村市 ㊦

番七百三話電 目丁七通條四町川旭

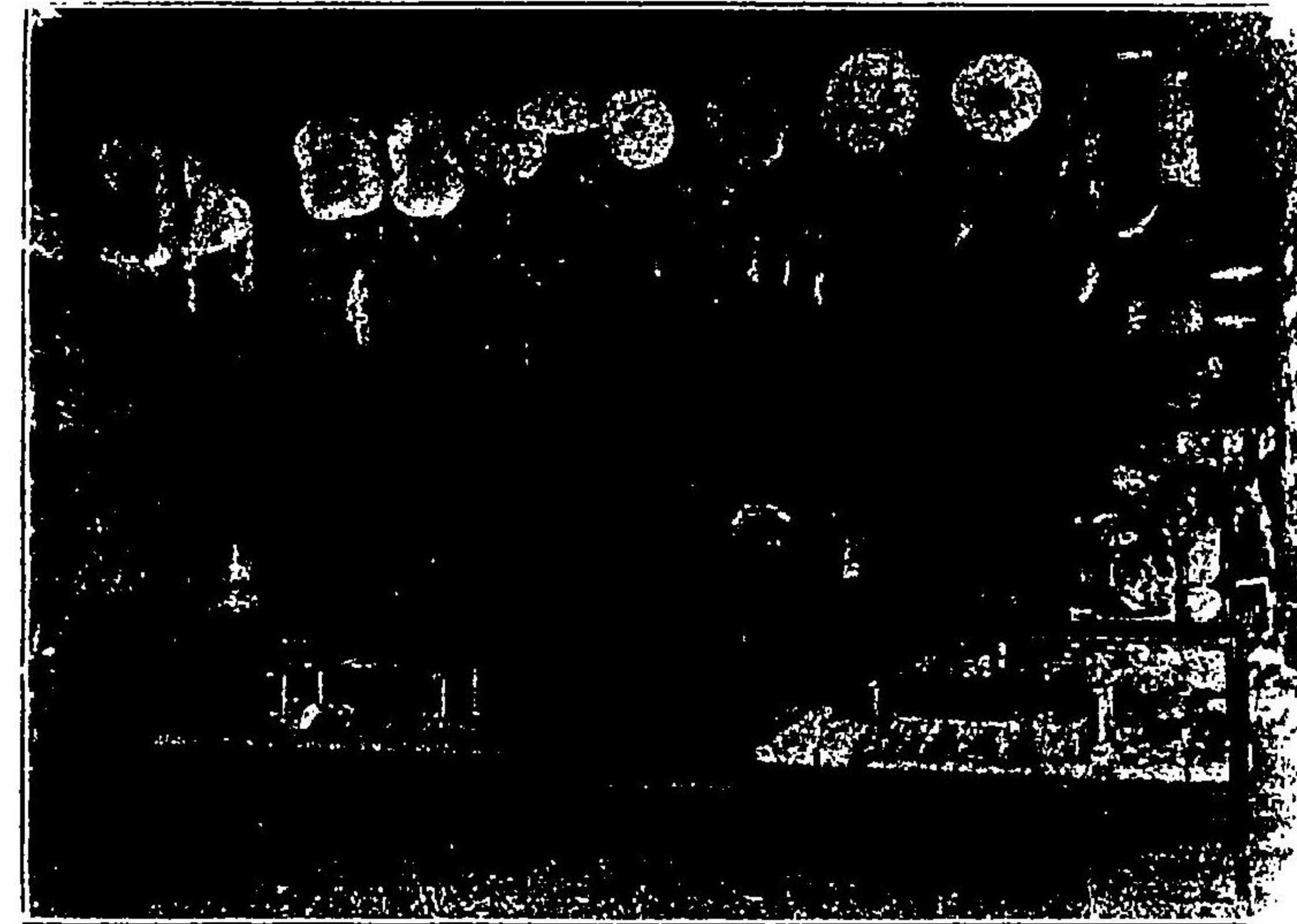


店紙村市 ㊦

番八百三話電目丁八通條二町川旭



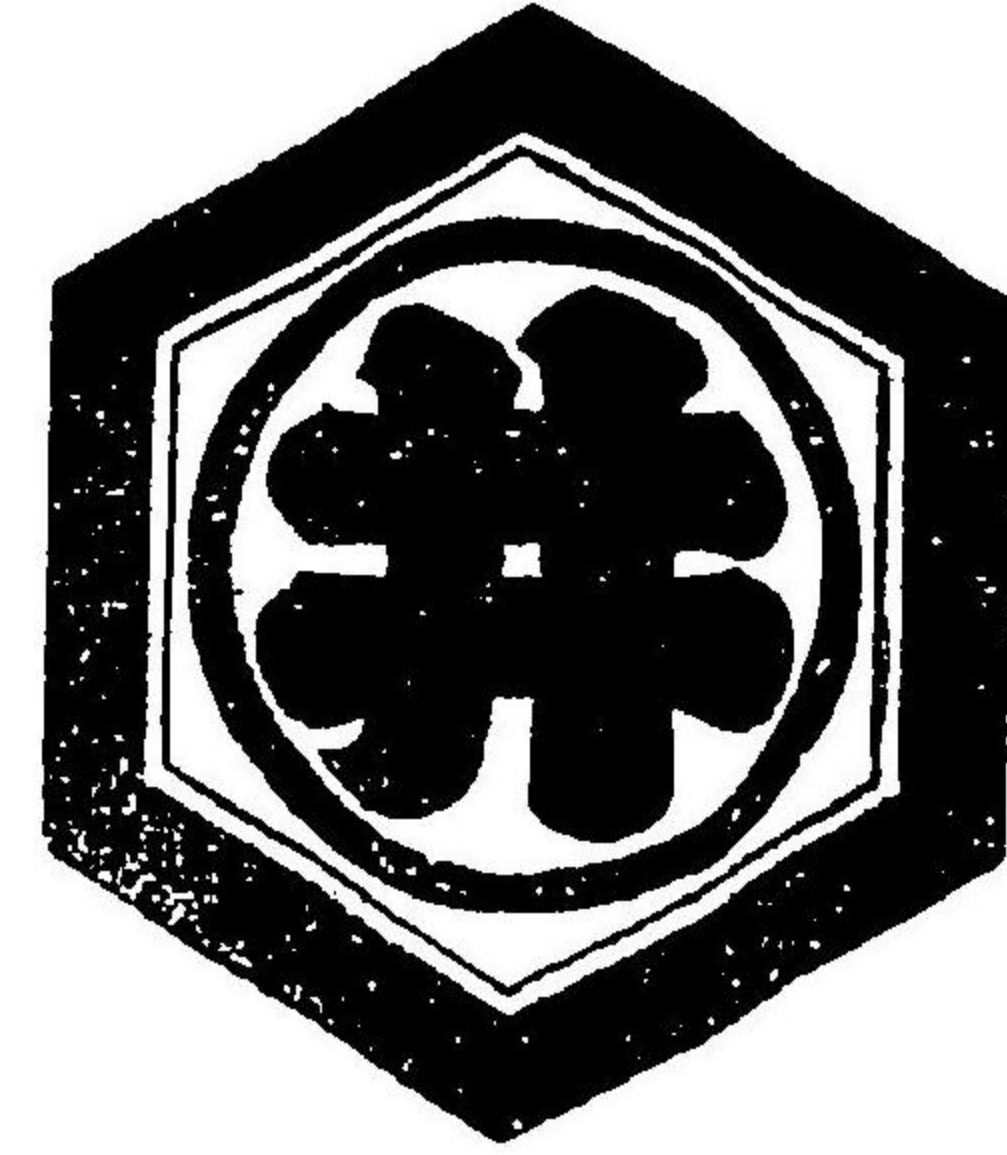
(景の部外) 店商田石 ㊤



(景の部内) 店商田石 ㊤  
旭川一丁目七番電話百九十九番

標商錄登

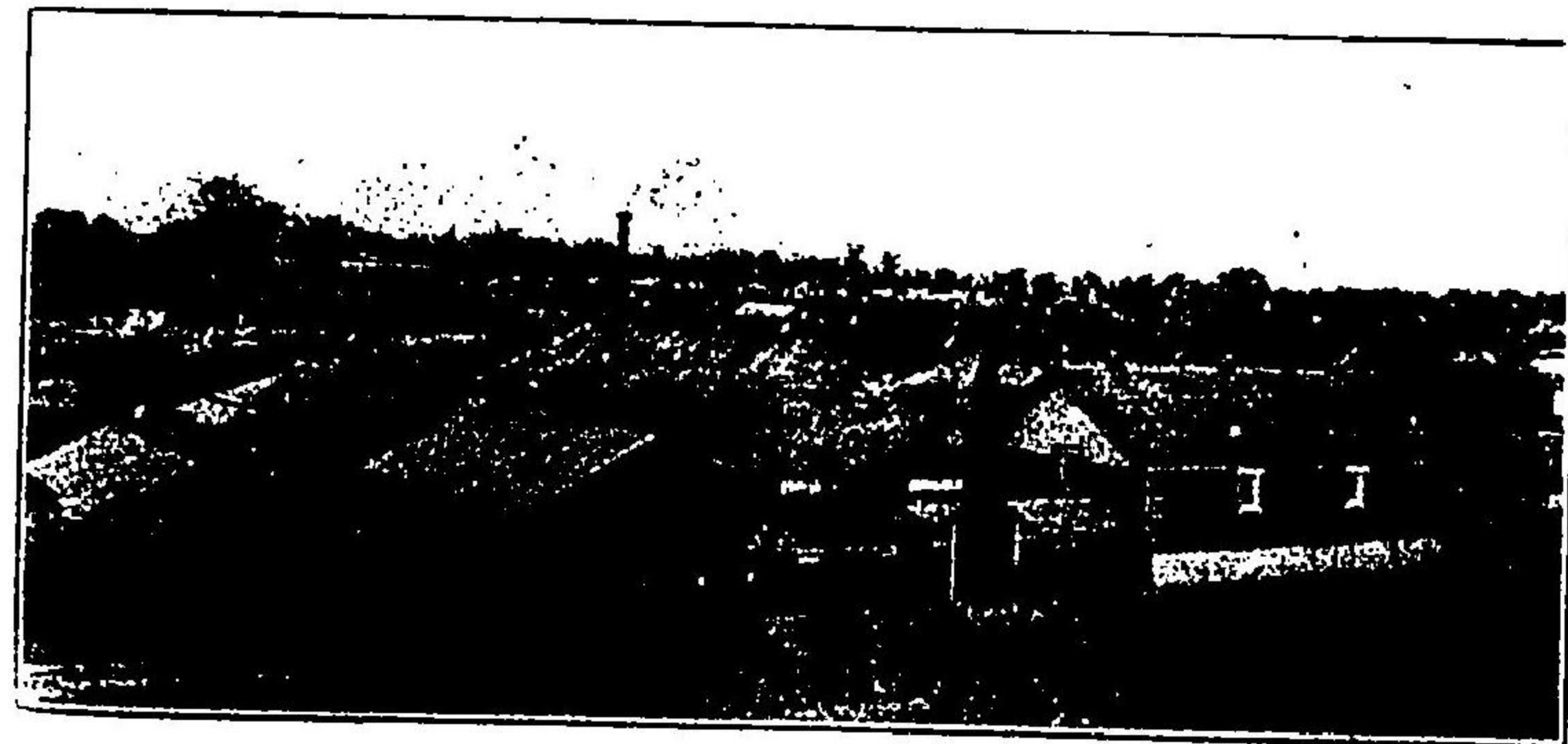
醬  
油



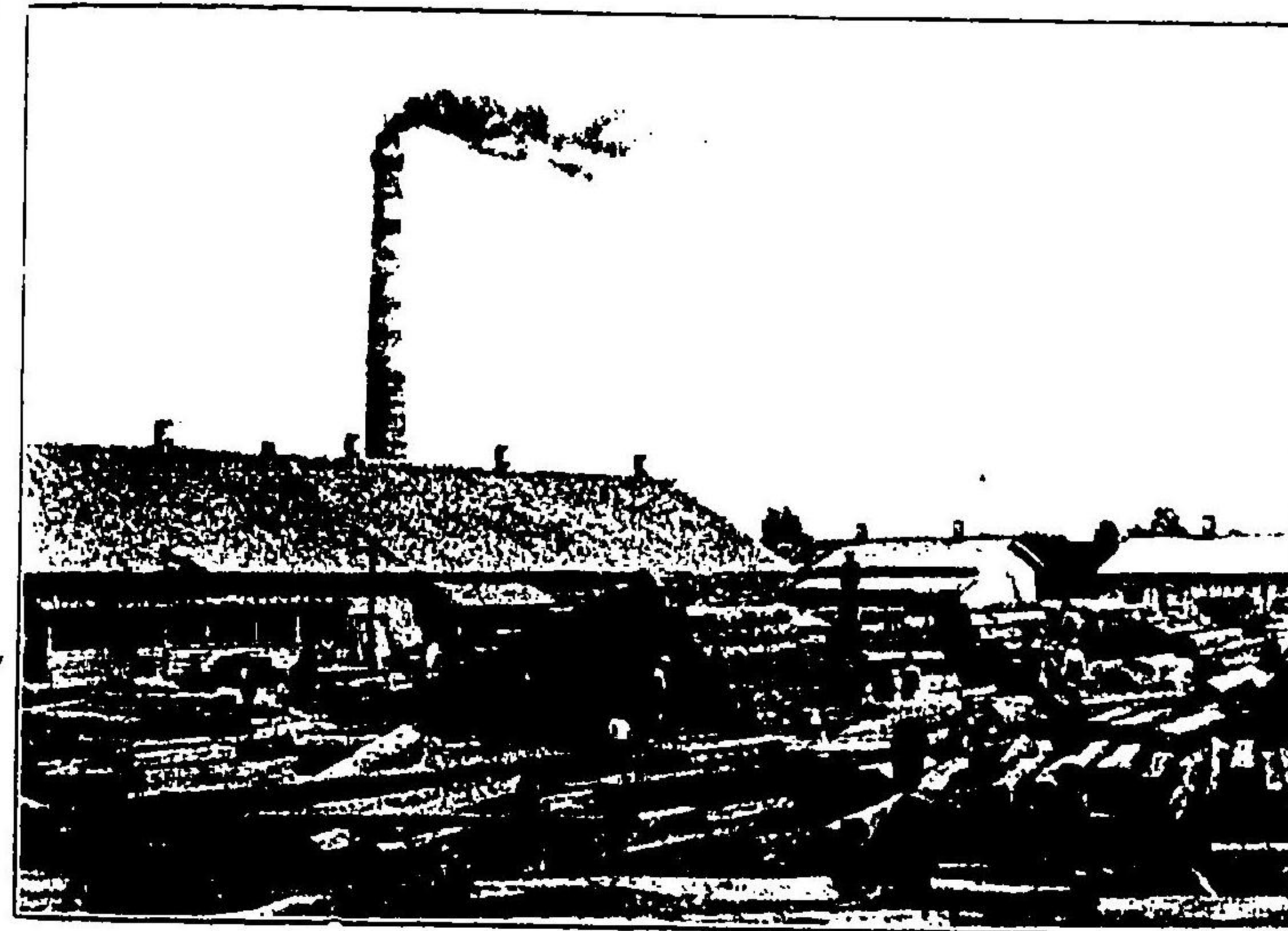
最  
上

元造釀

所造釀川旭社會名合井今 ㊤







旭川  
田中木工場



旭川初谷

アールコー社会



旭川町三條通十一丁目右十號  
質屋 後藤善八

電話百十五番



旭川町三條通七丁目右二號  
支店 後藤きん

電話百十六番

合

旭川町四條通七丁目右六號  
杉山質店

電話百十六番

以

旭川町二條通八丁目左八號  
川村質店

電話六〇九番

可

旭川町一條通五丁目左一號  
笠原質店

電話百十六番



店質

伊藤黙子

旭川町三條通十六丁目右九號

旭川町二條通六丁目左七號



屋質

谷口龜松

旭川町近文三線一號



質屋

瀬木四十逸

旭川町近文三線一號

砂金債券買入所

旭川町一條通三丁目右二號



山崎政五郎

電話三六五番

旭川町四條通八丁目



木村丑次郎

旭川町四條通七丁目左四



尾太倉吉

電話三七〇番

旭川町三條通八丁目

引饅頭 元祖 旭利久

永山番外地

清酒利久玉川 永山釀造場

旭利久

酒味噌醬油販賣室蘭支店

旭川町三條通師團通

時計 眼鏡

山本時計店

電話一三番

旭川町七條通六丁目右十號

專賣特許

水田粉種蒔



黒田發賣部

電略(ヤマト)又ハ(ト)

旭川町五條通七丁目

精巧 迅速

上川寫真館

不思議の勉強

旭川町八條通十丁目

洋服  
裁縫

薄利堂

石黒覺太郎

利益を薄ふして多くの

顧客を迎ふるは弊店の

目的に有之候

琴三味線  
諸樂器

製造販賣

並に附屬品一切

旭川町三條通八丁目師團通

桐屋米澤卯之助



宮内省御買上

登録商標  
旭豆  
旭竹

旭川町三條  
通八丁目  
祖本店  
片山久平

電話二五六番

土木建築請負

石材販賣

上川郡近文三線六號

神保清七

建築請負  
木材賣買



淺野作治郎

旭山町宮下通十二丁目左十號

長電話五四五番  
電略(ヤマ)又ハ(サ)

六

建築請負



上木彌一郎

木材石灰販賣

電話六〇六番

旭川町宮下通十丁目右九號

土木  
建築請負

西村玉吉

電話六五四番

旭川町二條通四丁目左十號

七

天鹽國名寄驛

木材商

大久保虎吉

旭川町宮下通十二丁目

大久保出張所

旭川町宮下通十四丁目左七號

大島出張所

土木建築請負 朝川虎太

電話五二〇番  
電略(アサ)又ハ(ア)

旭川町四條通九丁目右

土木建築請負  小笠原榮助

旭川町三條通五丁目右四號

土木建築請負 生出勘次郎

旭川町三條通四丁目右十號

土木建築請負 藤橋音松

電話八三九番

旭川町三條通八丁目右十號

木材商 瀧波勘四郎

電話三〇六番

旭川町一條通六丁目

土木建築請負 辻廣駒吉

土木  
建築 請負

旭川町

馬場泰次郎

土木  
建築 請負

旭川町一條通十八丁目右

水野次郎八

木材  
商工

旭川町二條通六丁目

清水榮太郎

電話二〇四番

木材  
商工

旭川町一線一號

久米貞治

電話八一〇番

土木  
建築 請負 **中谷國太郎**

旭川町宮下通十二丁目

電話一四〇番

土木  
建築 請負 **小林英治**

關出張所

長電話七四七番

二三

土木  
建築 請負 **高橋大吉**

旭川町一條通十二丁目右十號

建築請負  
木材販賣 **谷内彌惣吉**

旭川町宮下通十二丁目右一號

旭川町宮下通十丁目

商**木材**  
  
**齋藤木材店**

電話三五六番

土木  
建築 請負 **酒井治三郎**

旭川町四條通九丁目右五號

電話二〇六番

二三



旭川町四條通九丁目右

土木 請負 田中要藏  
建築

電話六五二番

旭川町二條通九丁目左十號

土木建築請負  
木材販賣業

**富** 近藤權吉

電話六〇八番

旭川町四條通八丁目左九

土木 請負 菅野源吉  
建築

電話八四五番

一四

煉化石 煉化建築請負

屋根瓦販賣 熊澤文藏  
土管瓶

旭川町四條通八丁目  
電話三一八番

旭川町六條通七丁目

土木建築請負

**H** 高木熊太郎

電話八四七番

旭川町八條通八丁目左一號

土木請負  
木材販賣 **中** 川合菊次郎

電話五五四番

旭川町三條通十六丁目

土木 請負 高橋留治  
建築

旭川町二條通六丁目

建具 指物 **金** 伊藤金五郎

電話五五二番

一五

旭川町一條通十一丁目右五

種苗  
農具 販賣

火止石油一手販賣所

勸農園

齋藤宇太雄

園電話二三〇番

一六

旭川町二條通八丁目左角

藥問屋  
山形勉強堂

支配人 雲井喜太郎

旭川町八條通八丁目師團通

藥種賣藥  
小間物化粧品  
金子梅藏

旭川町二條通八丁目右一號

内外藥品  
醫療器械  
一齋藤支店

電話一三二番

公衆藥局  
當藥局は醫師の處方に依り  
調劑仕候

調劑は親切丁寧にして、藥劑師之を專  
任す調劑は晝夜を問はず患者の需に  
應ず

旭川町三條通十三丁目角

藥舖  
山本龜次郎

電話一五四番

旭川町一條通十六丁目角

藥種商  
直江藥店

旭川町一條通十八丁目左五

藥種賣藥  
染料塗料  
前田勝之助

電話三三七番

一七

美術塗物諸看板

硝子諸畫着飾エナメル塗

美術彫刻 金網金文字看板

旭川一、十、左一



あさひ社

ペンキ諸看板建築ペンキ塗  
和洋塗物硝子金文字着飾

あさひ社は明治三十一年の創立なり主人は  
小菅勇七越後中條の出也漆器の美術を専巧  
し官私工場に於て技術優秀を以て稱せらる  
旭川に來るや推れて鐵工組合支部長となり  
文學博士片山潜等と氣脈を通じて盡瘁する  
もの多し 偶 上官と意見を異にし辭して本  
工場を創立す爾來天 幸と與へず火災に罹  
り戰役に從軍し又妻を失ひ事を爲すの餘裕  
なかりしも百折不撓遂に能く今日あるを致  
せり常に自ら思へらく正義活躍以て世に處  
せん哉

骨董商

旭川町三條通九丁目右三號

谷垣如春堂

旭川町一條通十一丁目



加藤稻吉出張所

電話一五六番

合名  
會社



旭川賣炭所

旭川町宮下通十四丁目

電話四一五番

活版石版  
廣告取次

旭川町六條通師團通

其水堂支店

電話六〇四番

林檎酒諸  
罐詰製造  
和洋酒類

旭川町三條通八丁目右一號師  
團通

### 三國屋支店

電話三〇二番

和洋酒  
罐詰  
味噌  
油

### 小澤屋

旭川町四條通七丁目左三號

小澤 健三

電話二〇六番

### 快愈散

うちみ、りようなちすの妙藥

一包入十錢 三包入二十錢 五包入三十錢

### 順血散

### 子宮病の大妙藥

一週間分七十錢 二週間分一圓三十錢 三日分卅五錢

うち身  
もみ療治

旭川町二條通九丁目左六

### 大河内三千太郎

旭川町二條通九丁目左九號

### 鍼灸術

### 任然堂

### 山川正太郎

形貌學 判斷  
性相學



なんの病でも鍼  
と灸でなほる

○まじない  
うらない

旭川町二條通十丁目右一號

# 山田鍼灸治療所

東京神道日本魂教會長

## 山田權大教正出張

○教導職志願者  
の手續を爲す

和洋  
小間物

## 卸小賣商



## 石田商店

旭川町二條通八丁目右十號

電話一一九番  
電略〇九

專賣特許

水田地均器  
一名ゼリ

製造元

旭川町二條通十八丁目左十

車糧農  
具製造

**林 金太郎**

電略ハヤシ又ハキ

旭川町二條通七丁目右八號

和洋  
物卸商

**木下直次郎**

電話三一六番

電略〇キ

旭川町三條通八丁目師團通

メリヤス帽子  
洋傘化粧品  
洋服附屬品

**正 佐藤洋物店**

電話 四六七番

電略(サト)又ハ(サ)

旭川町二條通八丁目

書肆 **弘文堂**

電話一五一番

旭川町三條通上川勸工場内

古本賣買 **八並博文堂**

御一報次第參上仕候

旭川町二條通十一丁目

書肆 **村上書店**

電話四一七番

旭川町二條通七丁目

書肆 **振武堂 三澤書店**

電話七四四番

海産乾物  
漬物罐詰



三箇商店

電話三三三番

旭川町二條通九丁目

海産乾物  
漬物罐詰  
雜貨



瀧波藤吉

電話二八番

旭川町四條通六丁目師團通

海産商

伊藤松太郎

電話二五番

旭川町四條通七丁目師團通

海産問屋

大廣商會

電話二六六番

旭川町一條通八丁目左十號  
合資會社

履物販賣  
製造  
品川商店

旭川町一條通十二丁目左十

上川履物製造の元祖に

して一ヶ年の製造高

約百萬足

萬履  
物類

武市商店

旭川町二條通九丁目左十號

電器(〇タ)又ハ(タ)  
電話一四七番

種各肉印等高及造製印ムコ

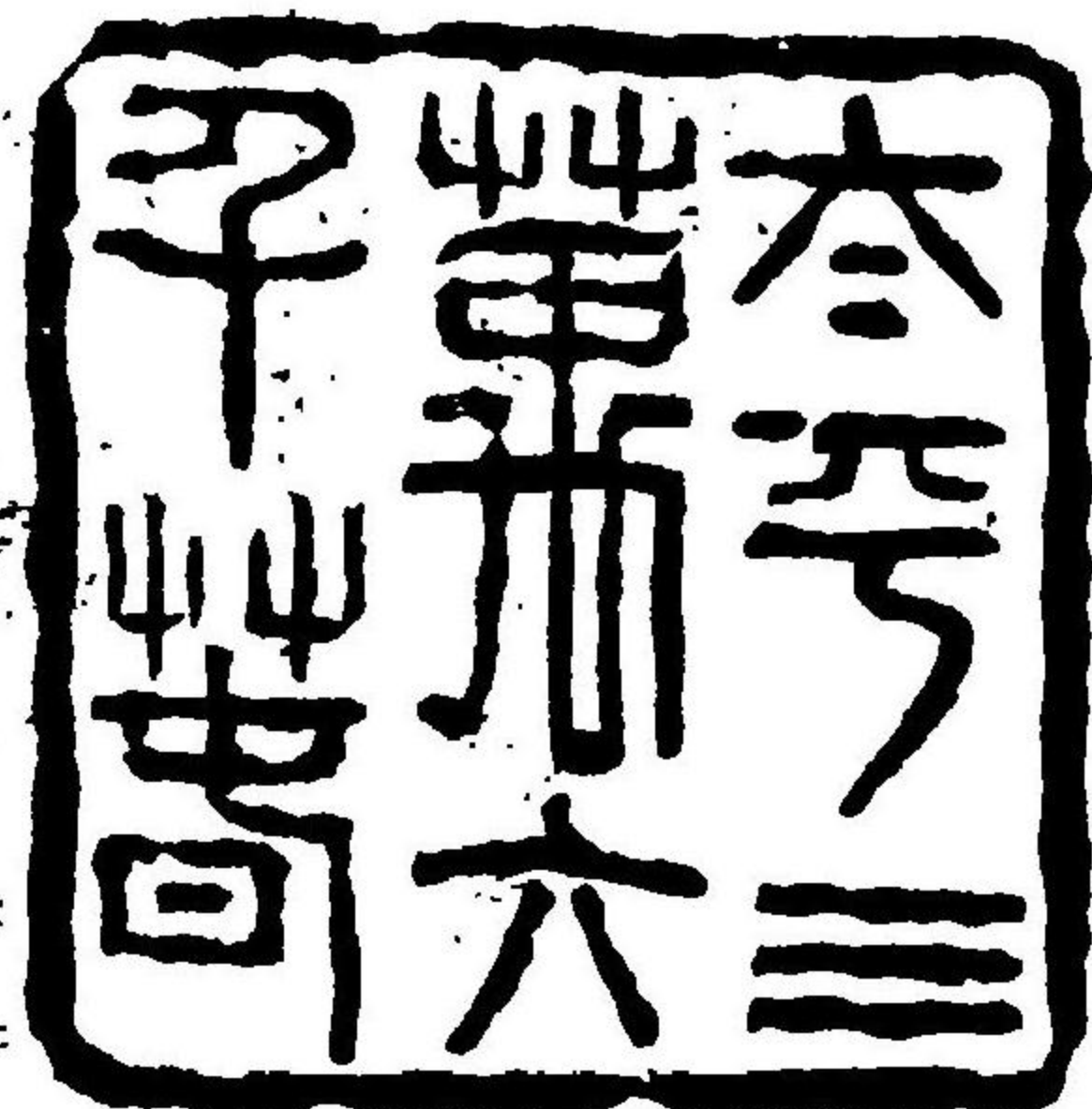
御 印 章 彫 刻  
略 曆 引 札 名 紙 印 刷

旭川町二條通九丁目

江川堂

小林印舗

電話 三〇五番  
(コハ)又ハ(コ)



春千六萬三平太



出品 褒状  
帝國博覽會  
三等銅賞

小海道旭  
川山本十好



京也草房

三條通

御印刻専門

天狗印

松山静巧堂

旭川町一條八丁目電話七五三番



神佛葬具

旭川町三條通八丁目右六號

禮式器具 賣買賃代

上川火葬株式會社

生花造花

電話一六〇番

近文墓地及牛朱別火葬取扱

神佛葬具諸禮式器具新調賃貸

三條通九丁目



博善株式會社

主任 有澤三郎

墓地神居村上川墓地高燥且眺望絕佳

旭川町三條通九丁目右一號

提灯問屋 傘類



折戸鐵三

電話一四一番

旭川町三條通六丁目右五號

薪炭商 石炭



長岡商店

旭川町二條通六丁目右一號

蕎麥商



川島兵次郎

旭川町一條通九丁目左十

石碑彫刻 引白製造



笠井石工場

旭川町二條通十六丁目右

種苗海産肥料 販賣雜穀仲買



瀨古判七

下駄小間物開業

電略(カ子)又ハ(イ)

洋板金  
家根張  
スト  
製造

**義**

宮武金次

旭川町五條通七丁目左七

ブリキ細工

旭川町四條通七丁目右一號

製造 **ハ** 飯田平八

旭川町三條通七丁目師團通

支店

漬物 問屋 **今尾崎商店**  
洋酒罐詰

陶器商

**一〇**

河合陶器店

旭川町二條通七丁目

電話一四六番

柳行李  
製造販賣

**㊄**

河關商店

旭川町二條通七丁目師團通

吉野湯

旭川町三條通九丁目右一號

吉川勇吉

農具日用金物

**六**

花輪富太郎

旭川町一條通四丁目

電話六五三一番

度量衡器

器械  
鑄鐵

**高橋**

高橋兄弟鐵工場

旭川町一條通十七丁目右一號

農具  
鍛冶工場  
双物

**司**

佐藤初太郎

電話八三九番

旭川町二條通六丁目左一號

旭川町二條通七丁目師團通

金物刃物  
度量衡器

商 **甲** 吉村多門

電話六一番

旭川町一條通九丁目右六

金物商 **乙** 旭 商 舖

旭川町一條通十五丁目左十

迅速 誠實 柴田鑄鐵工場

旭川町宮下通十九丁目

鐵瓶暖爐  
鍋釜鑄物



漆傳次郎

旭川町一條通五丁目右一號

陸軍御  
用鍛冶製鋸



松尾德三郎

旭川町三條通七丁目師團通

農具  
金物  
度量衡器



染川金物商店

電話三五二番  
電略(ソメ)又(ハ)ソ

陸軍

旭川四線一號

**和** 大澤藏吉

魚菜  
乾物  
漬物  
薪炭

長電話二九番

御用

旭川一線一號

陸軍御用  
蹄鐵器械  
乘馬具  
陣營具

山崎正雄

電略ヤマ  
電話六六四番

旭川二線一號

魚菜  
乾物  
漬物

陸軍御用

吉田商會

電話六三一番

旭川四線一號

海產 陸軍  
荒物 陸軍  
乾物 陸軍  
雜貨 御用  
**山**庄山彌惣治  
電話四三七番

旭川町二線一號

陸軍御用  
**黑田岩吉**  
電話五四〇番

旭川四ノ八師團通

官廳拂下品  
古銅鐵雜品  
**商**友松  
長電話五二一番

三六

◎師團◎鐵道部拂下品一式

◎軍服◎洋服◎外套類

旭川町二條通十丁目右七號

**藤木商店**  
電話六一四番

旭川町六條通七丁目師團通

各師團 三友組

諸官廳問屋  
拂下品 **松村商店**  
電話五四六番

諸官廳御用  
和洋紙文具

旭川二ノ九右一

合名 會社  
**山田商店**

電話一八番

雜貨類

旭川町二條通師團道路

陸軍御用  
**近藤支店**

電話三四五番

靴 鞆 製 造 問 屋

三七

靴 製 造 販 賣

旭川町二條通八丁目師團通  
合資會社

岩井商店

旭川支店

森田常次郎

電話(毛)  
電話五三三番

米穀  
荒物



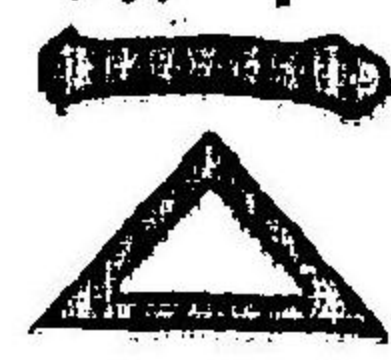
陸軍  
御用  
植山商店

旭川町二線一號

電話四一二番

三八

陸軍  
御用



野崎鐵藏

旭川町二線一號

電話八一二番

鐵道用品及  
卸商  
マニラロープ

旭川宮下通十二丁目右四

諸官廳  
御用達  
廣瀨善八

電話六五六番

札幌區北二條東一丁目一番地

廣瀨出張店

和洋紙  
文房具  
襖地類

旭川町二條通八丁目

諸官廳  
御用達



岡田商會

向井兵太郎

電話五四四番

製圖器  
雜貨

三五

魚菜  
陸軍旭川四線一號

乾物  
  
濱本商店

漬物  
御用  
濱本和太郎  
電話六四九番

陸軍  
旭川三線一號

蔬菜  
漬物  
卸商  
  
箭川常吉

御用  
電話七六七番

旭川町近文一線六號

製造  
販賣業  
官廳  
御用  
阿部善四郎

出張所旭川四條通七丁目右一號

旭川町近文二線一號

米穀  
荒物  
雜貨  
  
中村商店  
電話一四九番

旭川町二線一號

陸軍御用  
菓子製造  
  
小島商店  
電話六六二番

旭川町二線一號

陸軍  
菓子商  
御用  
  
小島勝之助  
電話六五〇番

旭川町三ノ九ノ右ノ一

荒物  
官廳用達  
雜貨  
  
土肥松藏  
電話二三四番

旭川町一線一號

陸軍 會名  
御用 會社  
**山田洋服店**

電話四〇九番

石炭

電話四〇二號

旭川三線一號近文二線八號

商 **濱田商會**

旭川町二條通八丁目右十號

馬糧

電話二〇七號

諸官應御用送  
土木請負

**榎莊次郎**

電話四五八番

工場用 鍛冶用 湯屋用

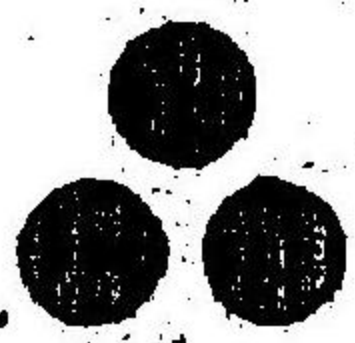
煖爐用 ストーブ用

炊事用

旭川町四條通八丁目左十號

**石炭專業**

標商



**旭川石炭販賣所**

主任 長濱善次

空知 夕張 炭山

上川方面一手販賣

宮下通十一丁目

貯炭庫

催眠心理治療

旭川町二條通十丁目中通

小松澤由松

紹介人又は立會人を要す

大坂  
酒問屋

品質純良  
樽入正確  
以責任  
要貴需

△  
○  
辛島商店

旭川町四ノ五

電話五四九番

四四

營業品目

金銀時計、眼鏡、

指輪、寶石、美術品、

國末金庫、測量器械

土木用水準器

室内ベル(學校用)製圖器

電池  
バラヒン線



旭川町一條通九丁目

佐々木時計店

電話一二五番

四五



旭川町四條通四丁目左九號

# 左官請負業



## 竹田定吉

電略(タケ)又ハ(タ)

郵便御通知次第設計及材料  
見積即時に仕候

旭川町二條通八丁目左五號

履物卸小賣

## 金五十嵐商店

電話七〇五番

旭川町二條通十一丁目右

履物傘  
卸問屋

## 金山商店

電略(一〇〇)  
電話四〇六番

旭川町四條通八丁目師團通

下駄商



## 武田商店

電話八四〇番

○生巻ば ○玉巻ば  
○乾巻ば ○素麵

旭川町五條通七丁目師團通

**小林虎藏**

電話八一五番

○餛飩 ○引饅頭  
○菓子用岩料

旭川町五條通七丁目右十師團通

秋田名産  
金銀美術

細工所

**秋田堂**

長木彦吉

四八

荒物  
味噌  
醬油

**竹原商店**

旭川町一條通三丁目左三號

竹原兼助  
電話一〇九番

器械製造麵類

**森田敬明**

旭川町二條通三丁目

電話三三九番

麵類製造

**日比野松重**

旭川町四條通十九丁目左八號

電話六五九番

雜穀  
肥料

**澤口商會**

旭川町一條通七丁目左一號

電話三三九番  
電略(サ)又ハ(ナワ)

雜穀  
肥料

**世木澤藤三郎**

旭川町二條通十八丁目左五、六號

電話七〇番  
電略(セキ)又ハ(セ)

四九

旭川町四條通八丁目師團通

米穀  
荒物商  
馬糧



土佐屋支店

電話 二一〇一 番  
電略 (ト又ハトサヤ)

旭川町二條通十三丁目

米穀  
荒物  
雜貨  
味噌醬油醸造



湊為吉

電話 三三四 番  
電略 (ミナト) 又ハ (ミ)

旭川町二條通六丁目右十號

米穀  
製粉問屋  
酒類



野崎商店

長電話 二一二 番

旭川町三條通八丁目左八號

米穀  
雜貨商

竹竹内商店

旭川町中島左九號

米穀  
荒物商



青山常四郎

土地仲買人

小畑利吉

旭川町三條通七丁目左四號

電話 五〇七 番

旭川町一條通二丁目左十號

米穀  
雜貨商



齋藤治郎作

仲立業

桂敬之

旭川町三條通十丁目

電話 七四八 番

旭川町二條通八丁目左裏

玉突場

清交軒

梶田徳二郎

土地仲買人

吉岡榮太郎

旭川町宮下通十二丁目右一號


電話 四〇五 番

旭川町一條通八丁目師團通  
菓子卸小賣  
**竹林菓子店**

旭川町一條通六丁目左七號  
和洋菓子 卸問屋  
掛物製造  
**山本支店**  
長電話五一四番

旭川町二條通七丁目左一  
菓子商  
  
**橋本商店**  
電話三一〇番

旭川町二條通八丁目左三號  
東京小牧金庫  
一手販賣所松月堂  
和洋菓子  
宇治銘茶  
卸小賣  
**文奥山商店**  
電話二三七番  
電略(オク)

陸軍御用部  
近文二線一號  
  
奥山松月堂出張店

旭川町一條通八丁目右  
美術貴金屬  
金銀時計  
寶石眼鏡  
**加藤時計眼鏡店**  
電話五三五番

旭川町四條通七丁目師團通  
時計及  
附屬品商  
眼鏡  
  
**村田治三郎**

旭川町一條通九丁目右十號  
家具商  
漆器  
**吉川留吉**  
電話六二九番

旭川町二條通九丁目  
疊建具美術  
漆器佛壇佛  
具日用家具  
  
**石崎商店**  
電話六五番

菓子掛物  
洋菓子問屋  
罐詰類



瀧野常吉

旭川町二條通六丁目右

電話六二〇番

砂糖  
麥粉商  
石油



市村砂糖店

旭川町四條通七丁目左一號

電話三〇七番

砂糖商  
麥粉



橋本信吉

旭川町一條通九丁目

電話四〇七番

自園

宇治

卸小賣

銘茶

特製

江口商店

旭川町一條通九丁目左九號

和洋菓子商



西島太三郎

旭川町一條通七丁目左七號

洗濯業



吉田安太郎

第一堤支店 旭川町二條通六丁目左一號

電話八三一番

第二堤支店 旭川町一條通六丁目左十號

西洋洗濯



清水歡二

旭川町二條通七丁目右一號



洗濯部鳥居荒太

旭川町三條通八丁目左十號

電話六四三番

染物業



近藤染舖

旭川町一條通三丁目右一號

長電話一五五番

染物業

旭川町七條通八丁目左一號

小川染物所

表具師

旭川町八條通七丁目

千勝堂

五六

表具師

旭川町二條通十丁目左一號  
臥牛堂

若狹淺治郎

表具師

旭川町三條通六丁目右六號  
竹林堂

糸澤兼次郎

表具師

旭川町三條通七丁目右三號

藤田嘉彌太

框製造

旭川町二條通七丁目右五號

星野乙平

美術書畫看板

ペンキ、エナメル、美術彫刻

美術肖像木彫、金網金文字看板

砂子金銀文字、諸書着飾

旭川町三條通九丁目右十號

油繪肖像  
寫真書割

秀英堂

西川竹影

建築物ペンキ塗、繪ビラ引幕、座敷欄

間彫刻祭典諸飾物

諸看板

塗物

一式



旭廣堂

旭川町一條通六丁目一

河合伊之助

五七

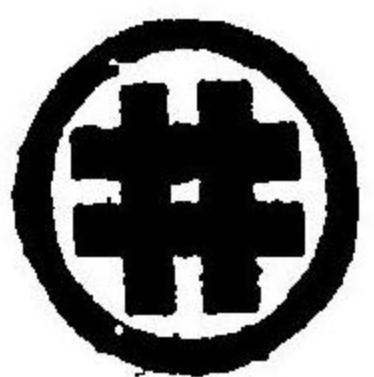
一條通七丁目左十號

吳服店

同

洋物店

電話五二番



今井合名會社旭川支店

同

金物店

電話五三番

四條通二丁目

醸造部

電話五四番

<p>人物風景</p> <p>旭川一條通八丁目左</p> <p><b>谷内寫真館</b></p> <p>電話四五九番</p>	<p>ペンキ、ワニシ 硝子金銀着飾</p> <p>金文字網看板</p> <p>旭川二條通十一丁目左一號</p> <p>美術塗物 寶榮堂</p> <p><b>渡邊富藏</b></p> <p>電器(ワタ)又ハ(ワ)</p> <p>塗物は堅地仕上なり殊に注意を乞ふ</p>
<p>旭川四條通九丁目右一</p> <p><b>福井寫真館</b></p> <p>福井直</p>	<p>旭川三條通九丁目右一號警察前</p> <p>塗物師 <b>太佐藤太吉</b></p>

旭川町三條通八丁目右七

### 小樽 三浦寫真館

旭川支店

主任 藤野 清

旭川町二條通十丁目

風呂釜  
家根張鐵業職  
ストロン



千佐藤專之

旭川町二條通八丁目右

### 疊製造販賣 東海林常吉

電話六三九番

旭川町二條通十一丁目右十號

疊製造



小田島商店

電話八三四番

疊表線糸卸小賣

旭川町十一丁目右二號

吳服太物  
洋服外套  
古着仕立物

### 成川商店

電略(ナリ)  
電話二四五番

旭川町十一丁目右一號

布團製造販賣同

布團部

旭川町一條通四丁目右十號

吳服商



矢島商店

電話一五三番

旭川町二條通八丁目左二號

吳服商



長松浦商店

電話三二九番



旭川町一條通九丁目左三

太物  
仕立物 卸商

**大**井内太物店

電略(キウチ)  
電話一三三番

振替口座東京六四二六番

旭川町一條通八丁目右八號

吳服  
太物 卸商

**命**花輪庄治郎

電話四二番

旭川町七條通七丁目右十號

吳服  
太物 メリヤス商

**福**安部商店

電略(ア)

旭川町一條通六丁目

**木座**

座主 辻廣駒吉

電話一六四番

旭川町三條通八丁目

**徳座**

座主 近藤幸五郎

電話六二三番

祝刊行

旭川町四條通七丁目

市場亭

佐藤兼吉

旭川町三條通十五丁目

大國座

明治四十三年十月五日印刷  
明治四十三年十月十日發行

最近の旭川

定價金六拾錢

不許複製

編纂者  
發行者  
印刷者  
印刷所  
發行所  
賣捌所

北郷文二郎

石狩國旭川町二條通八丁目右一號

齋藤靖也

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

青木弘

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

株式會社 秀英舎工場

石狩國旭川町二條通八丁目右一號

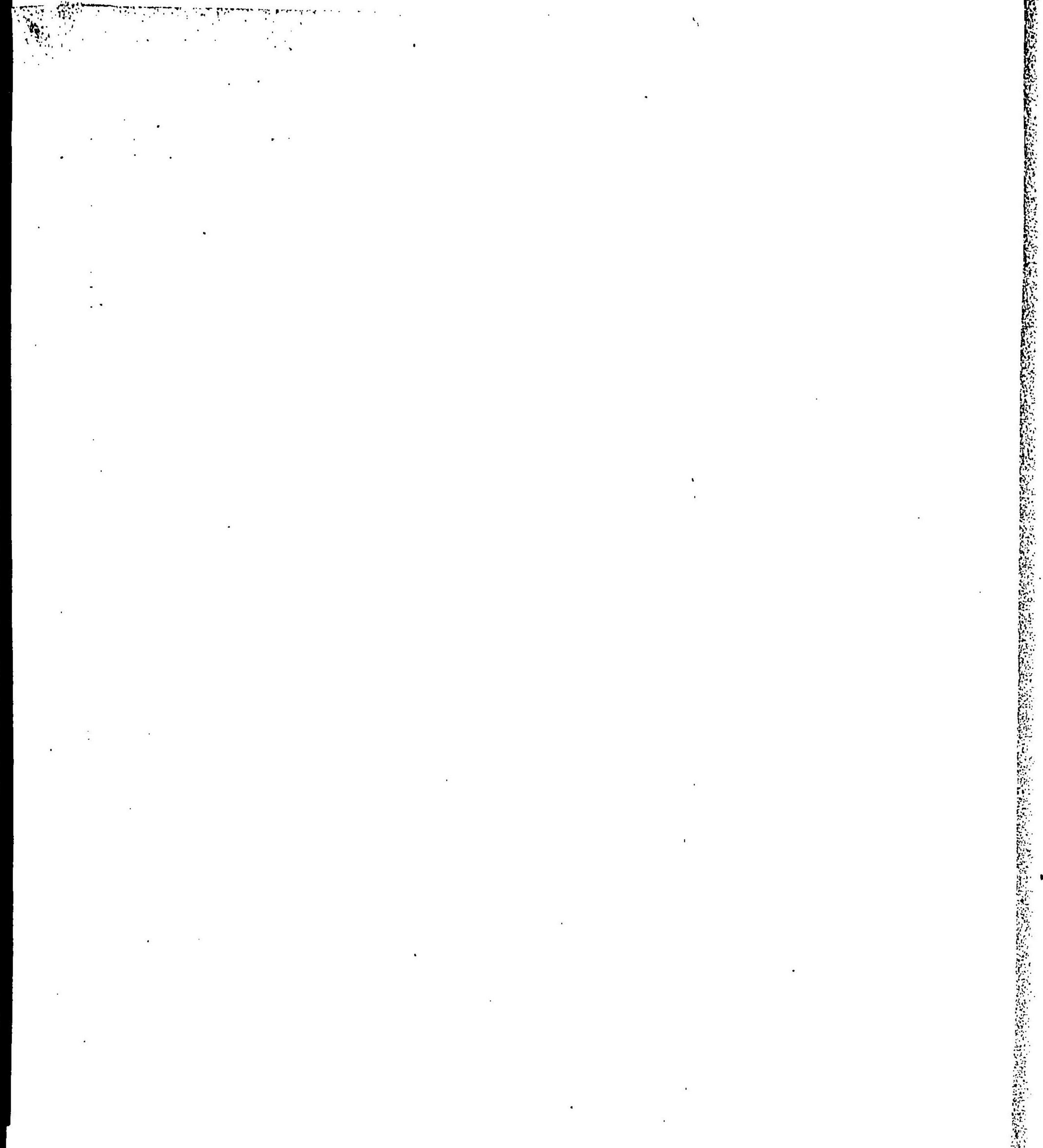
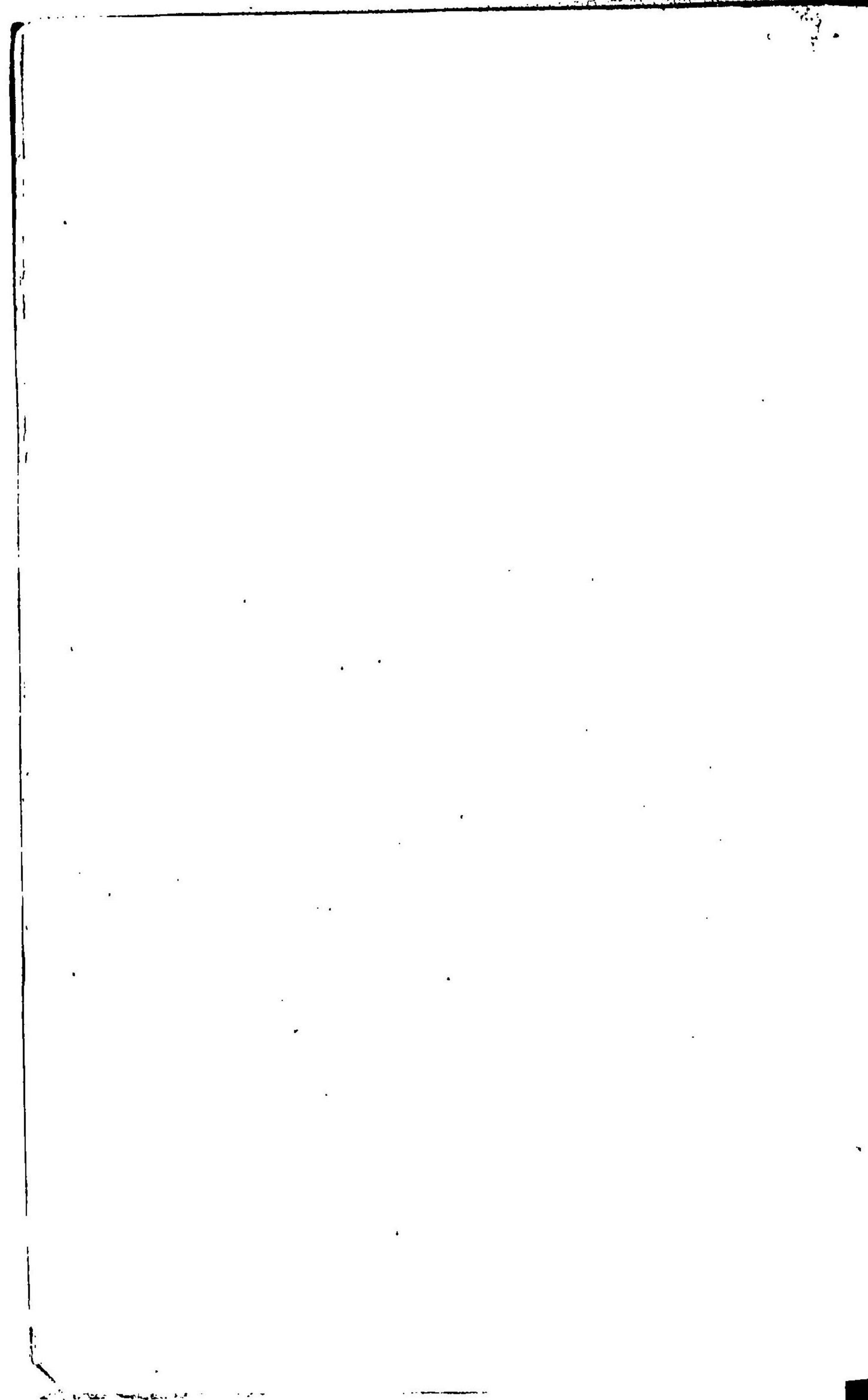
弘文堂書店

電話一五一

石狩國旭川町二條通七丁目左十號

三澤書店

電話七四四

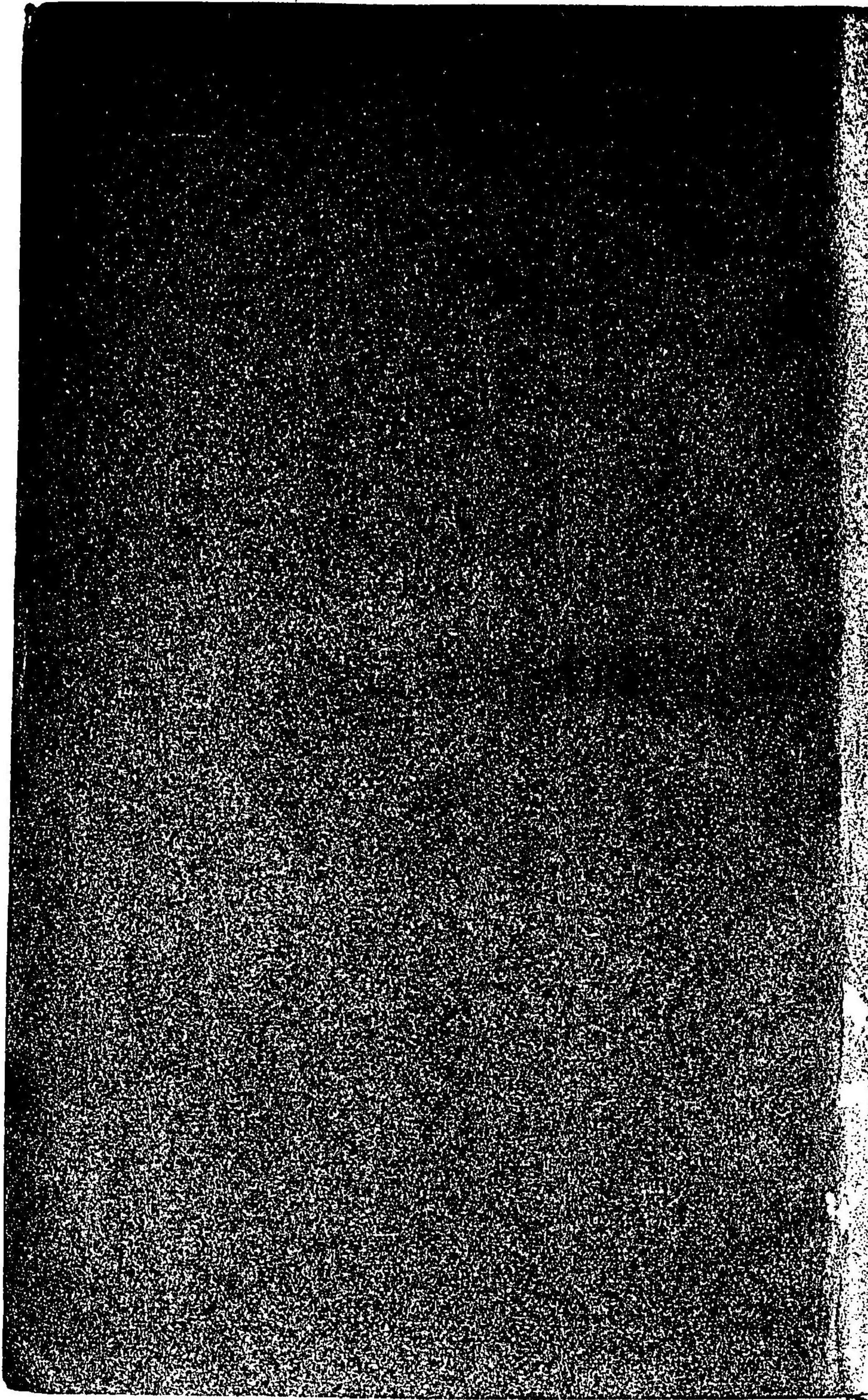




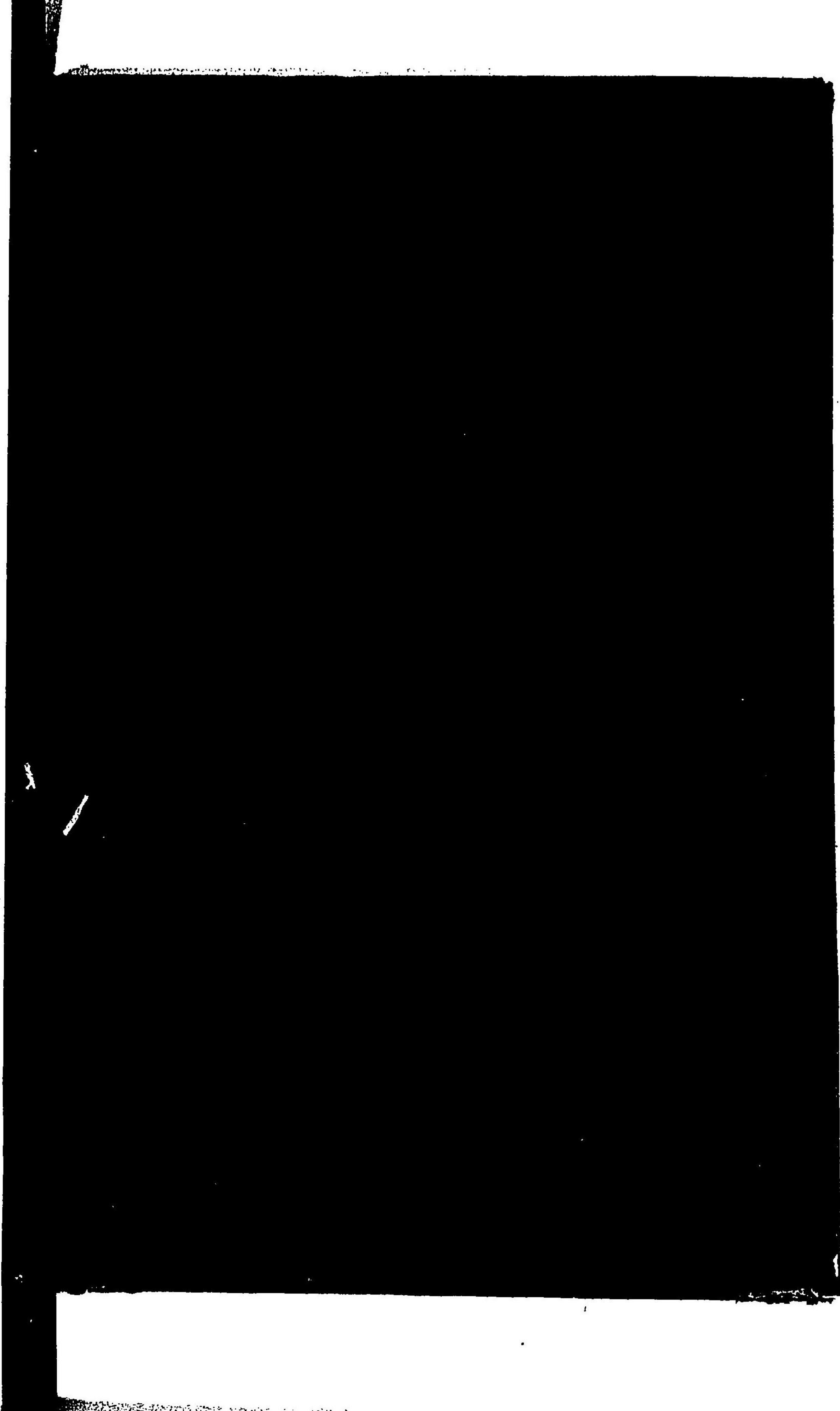
96

573

旭川金川圖



96
573





96  
573

310006-000-6

96-573

最近の旭川

北郷 文二郎／編

M43

ADC-0000

